

ANNUAL REPORT

2016 – 2017

No. 40



Division of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済，経営，都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的，数理的，計量的）アプローチによって解明し，政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2017 年 4 月現在の本域所属の教員は，教授 21 名，准教授 23 名，講師 2 名，助教 7 名の合計 53 名、連携大学院教員 8 名（教授 5 名，准教授 3 名）を加えると 61 名である。それぞれの構成員は，国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように，また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の 2016 年度中の研究・教育活動は，以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本域の研究活動は，2016 年度も全分野（社会経済，経営工学，都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては，最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入に努め，外部研究資金を着実に獲得している。2016 年度の科学研究費の採択本数は 13 件（基盤(B)4 件，基盤(C)1 件，挑戦的萌芽 2 件，新学術領域 1 件，若手 4 件，研究活動スタート支援 1 件），継続 20 件（基盤(B)4 件，基盤(C)12 件，挑戦的萌芽 1 件，若手 3 件）と合わせると 33 件となる。

また，研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2017 年 5 月現在，リサーチユニット 11 件，リサーチグループ 11 件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして，2014 年度より，社会システム・マネジメント専攻，社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻を改組し，社会工学専攻が発足した。その中で博士前期課程(システム情報工学研究科)においては社会工学学位プログラムとサービス工学学位プログラムの二本柱で教育を推進している。これに加え，旧課程の社会システム工学専攻の他に，リスク工学専攻，生命環境科学研究科環境科学専攻で教育活動を行っている。一方，博士後期課程(システム情報工学研究科)では，社会工学専攻に加え，旧課程である社会システム・マネジメント専攻の他に，リスク工学専攻において教育活動を行っている。これらに加え，学類教育組織は，理工学群社会工学類，および社会・国際学群国際総合学類の教育を本域では担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。社会工学専攻では改組前の 2007 年度より，博士後期課程で「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」を通じて社会人を継続的に受け入れている。2008 年度からは院生活動支援プロジェクトを実施し，自前の予算で学生の国内外の研究発表を経済的に支援している。さらに 2016 年には社会工学学位プログラム内で社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」の開設準備を行い，サービス工学学位プログラムとともに，本学に 2017 年 4 月に開設された未来社会工学開発研究センターと人工知能科学研究センターの活動に貢献する体制を整えた。

かねてより社会工学専攻ならびに社会工学類では，教育の高度化を目指し，グループ作業，フィールドワーク，インターンシップなどを積極的に取り入れている。これらの教育では卒業生による協力も大

きい。社会工学同窓会，土工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に，2007 年から社会工学類の優秀な卒業生 3 名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも，様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は，清華大学，浙江大学，北京航空航天大学，香港理工大学（中国），漢陽大学校，弘益大学校，韓国国土研究院，ソウル市立大学校（韓国），ウィーン経済・経営大学（オーストリア），交通通信大学（ベトナム），ルール大学ボーフム校（ドイツ），アル・アハワイン大学（モロッコ）等，多岐にわたっている。特に 2016 年 9 月にベトナムの首都ハノイにおいて開学した「日越大学」，ならびに筑波大学における世界展開力強化事業では，本域の教員が多数協力を行っている。

また実学も重視しており，国，自治体，企業などとの連携も含め多様な社会貢献，地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や，茨城県内 5 市（北茨城市，高萩市，神栖市，潮来市，鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において，本域教員が中心的役割を果たした。また，多数の出張講義・公開講座，本学主催の高大連携シンポジウム開催など社会連携活動へ大いに貢献した。2017 年 4 月からは社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」も開設され，産官学連携活動も一層活発化する予定である。

(4) 組織

本域教員の流動性が高く，それに伴い審査付学術論文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし，昨今の採用人事制度の変更に伴い，優秀な人材を確保・維持していくためには，組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は，様々な研究分野・職歴・国籍をもち，工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで，若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が，相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには，研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し，中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に，研究，教育，学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により，社会的説明責任を果たさなければならない。特に本学に 2017 年 4 月から開設された未来社会工学開発研究センターならびに人工知能科学研究センターとの連携では，本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに，本域の研究・教育両面での新たな飛躍が期待されている。組織力を生かした運営を通じ，社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに，本域の活動を知っていただく上で有効に活用されれば幸いである。

2017 年 5 月 31 日

社会工学域長，社会システム・マネジメント専攻長，社会工学専攻長

吉瀬 章子

大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学者から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2017/5/8 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス組織の経営学(人社系)	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。	生稲 史彦
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業体が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
空間情報科学(複合系)	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹

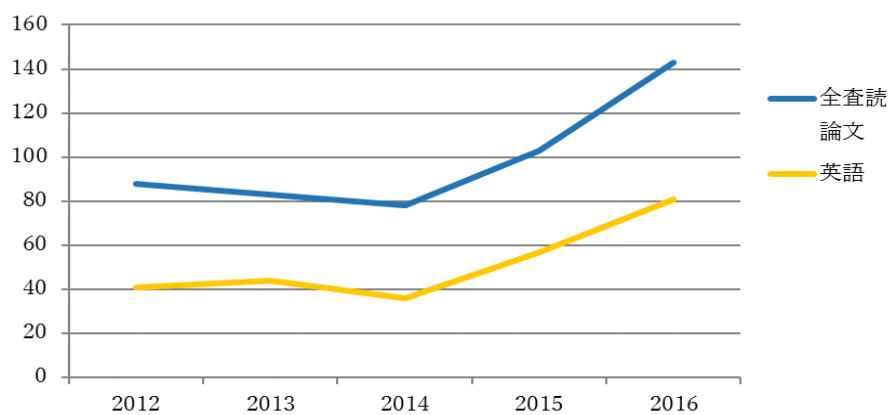
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意識決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三
価値創造(複合系)	ビッグデータが注目される中、複数の情報を組み合わせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。	繁野 麻衣子
生態系サービス研究(複合系)	研究グループは社会工学域の以下の3名の教員が中心となっている。代表の吉野はリモートセンシングデータ解析による地域の環境評価、特に土地利用分析を専門としている。中核教員の村上は、緑地計画をベースに環境デザインに精通している。また、もう1名の中核教員の甲斐田は、環境の経済価値評価ならびに開発プロジェクト評価を専門としている。本研究グループは、共通の研究対象地に対して、これら3名の教員の研究専門分野と得意な研究ツールを互いにオーバーラップさせることにより、研究対象地における環境問題の解決をはかり、さらに生態系サービス水準を向上させる管理政策の提言が可能である。具体的には、本研究グループは、地域環境から我々が享受している生態系サービスの持続的維持、管理、有効利用を図るため、問題・課題の発見、現状把握、変化過程のモニタリング、様々な視点からの評価、実際的な政策提言を行う課題を研究テーマとして活動する。	吉野 邦彦
マネジメント・サイエンス、経済学、心理学にわたる共同学際研究(複合系)	社会工学域所属の5名の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・ファイナンス・マーケティング)および経済学(産業組織論)分野の共同学際研究	金澤 雄一郎

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員(2017/5/8 現在)

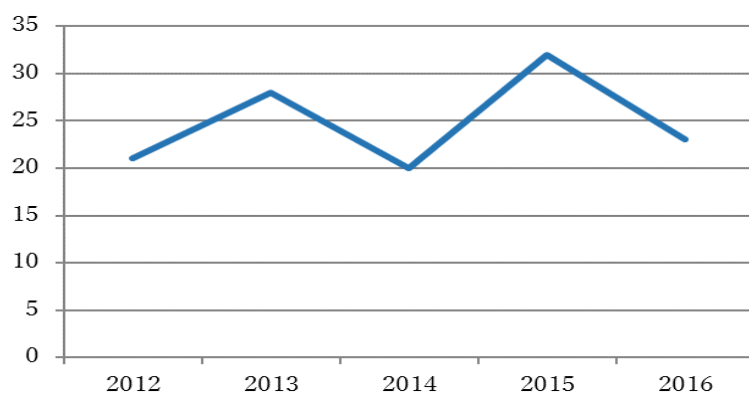
課題名	概要	代表者
マネジメント・サイエンス・経済学・心理学にわたる学際研究	社会工学域所属の6(昨年度までは4名)名の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・産業組織論・マーケティング)および経済学(ミクロ経済学・産業組織論)分野の共同学際研究	渡辺 真一郎
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を越えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループにおいては、環境経済学、都市計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
行動論的・社会的・心理学的アプローチによる社会経済システムの解明	本グループでは、社会的・経済システムに及ぼす様々な要因を、心理・社会実験、調査、シミュレーションなどの多面的なアプローチから明らかにし、従来の研究枠組みを超えた新しい知見や、方法論を構築する。	石井 健一
地域生態系の持続的機能維持のための地域環境政策に関する研究	開発圧力が顕在化している国内外の都市郊外地域を対象にして、その地域社会の持続発展と地域生態系機能の持続的維持を図る地域政策と環境政策を、環境影響評価、地域政策、環境政策の観点から解明する。	吉野 邦彦
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPS タクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩

都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	谷口 綾子
地理情報の解析と視覚化	数理科学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明
社会メカニズム工学	複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。 ・キーワード:マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス	栗野 盛光
ミクロ計量経済学的分析手法の開発と応用	本研究は、大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなミクロ計量経済学的手法の開発と、日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的としている。	大久保 正勝
都市・地域の経営とデザイン	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。	有田 智一

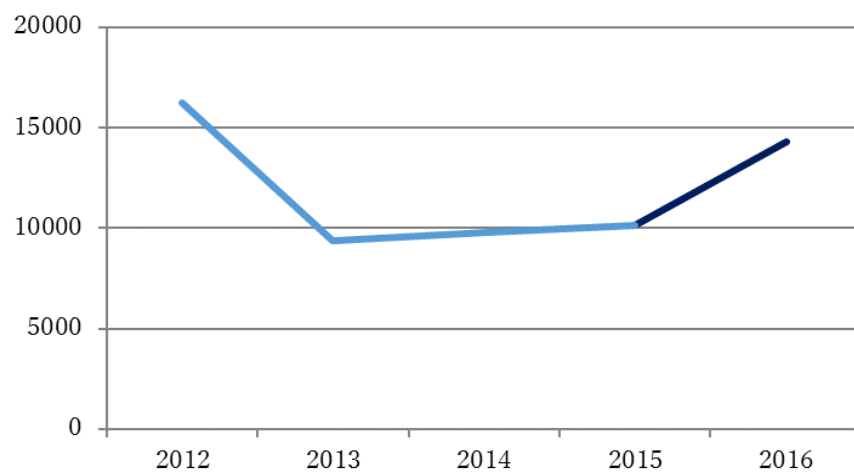
教員過去5年間の論文数



教員過去5年間の著書数



科研費合計額（単位：万円、直接＋間接経費、代表者が社工教員）



II. 教員一覽

2017/3/31 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション	力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
石田 東生	都市交通計画、社会基盤施設計画、交通需要予測	公共交通の成立性、自動車保有と世帯交通活動、社会資本整備と合意形成
糸井川 栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
大澤 義明	都市計画、地域科学	都市計画、社会工学、地域科学
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共部門の内部情報の外部共有が生み出す問題解決効果に関する研究
岸本 一男	数理工学	デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析
イリチュ(佐藤)美佳	多次元データ解析、統計科学	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	立地分析、計画リスク、リスク管理 型都市公共サービス	立地・輸送におけるリスク分析、都市インフラストラクチャーの維持管理、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、 保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、 性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、 地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル
中村 豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、 暗号理論、通信方式	完全差集合族とそのレーダー配列への応用、デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、ベイジアンネットワークの遺伝子情報解析への適用、組合せデザイン理論を用いた情報通信・情報セキュリティのためのシーケンス構成問題

村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	錐最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
吉野 邦彦	リモートセンシング、地域環境工学	生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析
渡辺 俊	建築計画、都市計画、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CAD システムに関する研究、
渡辺 真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人－仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外住宅地の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理学研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
生稲 史彦	製品開発論、技術マネジメント、イノベーション	コンテンツ及びサービス分野における開発活動のマネジメント、IT と企業経営、イノベーション
石井 健一	コミュニケーション、情報社会	インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動、コンテンツ消費、広告の心理的効果、広告の内容分析、新製品の普及過程のモデル
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般：後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化

岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造
奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発
倉田 久	サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理	サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究
栗野 盛光	マーケットデザイン、実験経済学、ゲーム理論	マッチング市場における中央集権的あるいは分権的制度的デザイン
小林 佑輔	組合せ最適化、アルゴリズム論、離散数学	グラフ・ネットワークにおけるアルゴリズムの研究、最適化に有用な離散構造の研究
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
高橋 正文	派生証券評価、金融リスク管理	デリバティブ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク、コミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、まちづくり法制、住環境整備	計画的住宅地の持続可能性に関する研究、ICTを活用したまちづくり・地域活性化に関する研究、市民・事業者による多様な都市計画提案を活用した持続可能な空間形成手法に関する研究、住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市保全

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	コンピュータデバイス、生産管理、オペレーション管理, 技術経営	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法, 超受注生産システム 技術経営と地域活性化(DMAICとIoT・ビッグデータ解析の応用研究を含む)
近藤 文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次 POS データの価格反応モデル分析

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
安東 弘泰	数理工学、非線形ダイナミクス	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用
五十嵐 岳	数理統計学	ノンパラメトリック推定
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本(教育水準や健康)の蓄積に与える影響に関する実証研究
甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
鬼頭 朋見	複雑ネットワーク、産業構造解析・設計、企業戦略論、生産工学、エージェントシミュレーション	
佐野 幸恵	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス	社会現象における普遍則の抽出、ソーシャルメディア分析、大規模データ解析
Tran Lam Anh Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
PHUNG-DUC Tuan	応用確率論, 確率モデル, 待ち行列理論, 性能評価, オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

III. 教員別の教育研究業績

氏 名	秋山 英三	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論

大学院前期課程

社会シミュレーション

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 2人／社会工学学位 P（前期）7人／社会システムマネジメント専攻 1人／社会工学学位 P（後期）1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究 (C) 人間の認知・行動と「金融資産市場の定式化された事実」：シミュレーションと行動実験（代表）
- 基盤研究 (A) 制度・認識・社会正義の経済学の構築に向けて（代表者：金子守）
- 基盤研究 (A) 老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論的、実証的研究（代表者：大澤）
- 基盤研究 (B) 帰納的学習による意思決定理論の構築と資産取引実験への応用（代表者：石川竜一郎）
- 基盤研究 (B) 成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築（代表者：谷口守）
- 基盤研究 (B) 高次報酬懲罰系による社会的ジレンマの解決（代表者：鳥海不二夫）
- 基盤研究 (B) 肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築（代表者：栗野）

◆ 著書・論文等：

- ・ 片平啓，秋山英三，“参加周期の異なるプレイヤーが混在する少数派ゲーム，” 情報処理学会論文誌，Vol 58 No.1，269-277，January（2017）．査読有

- Iwata, M., & Akiyama, E. Heterogeneity of link weight and the evolution of cooperation. *Physica A*, 448, 15 224 - 234, April 2016. 査読有
<http://doi.org/10.1016/j.physa.2015.12.047>
- Akiyama, E., Hanaki, N. and Ishikawa, R., It is not just confusion! Strategic uncertainty in an experimental asset market, *Economic Journal*, 2017 forthcoming. 査読有

◆ 学会発表等：

Akiyama, E., Mizuno, M., "Conflict and decision delay in the Prisoner's Dilemma Game," The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, July 25, 2016.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学 学術情報メディアセンター運営委員
 - システム情報工学研究科 運営委員会委員
 - システム情報系 運営委員会委員
 - システム情報系 人事委員会委員
 - システム情報系 教員評価委員会委員
 - システム情報系 運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類長
 - 学類 運営委員会委員
 - 専攻 運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会
 - ネットワークが創発する知能研究会 2016 プログラム委員
 - JAWS2016 (Joint Agent Workshops and Symposium 2016) プログラム委員

氏 名	雨宮 護	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市・地域・環境を探究 I／住まいと居住環境の計画／現代まちづくりの理論と実践／社会工学実習／住環境計画実習／社会調査実習／都市計画事例講義および実習

大学院：都市と環境／ファシリテーター育成プログラム／ファシリテーター育成プレプログラム（「多文化共生のためのコミュニティガーデンの計画と運営」）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3 人／社会工学学位 P（前期）7 人／社会工学学位 P（後期）1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手 B）「小地域時系列犯罪統計に基づく「防犯まちづくり」の効果検証と評価目録の作成」代表（2014 年度～2016 年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 B）「「農」を用いたコンパクトシティの土地利用整序を実現する新たな中間組織の解明」（代表：横張真（東京大学工学系研究科教授）），分担研究者（2016 年度～2018 年度）
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「子どもの犯罪被害の前兆的事案調査法の開発と妥当性評価」（代表：原田豊（科学警察研究所犯罪行動科学部特任研究官）），分担研究者（2016 年度～2018 年度）
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 A）「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」（代表：逢坂卓郎（筑波大学芸術系特命教授）），連携研究者（2015 年度～2018 年度）
5. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「割れ窓理論再考:秩序違反行為に影響するメソレベル環境要因の特定と実証的介入」（代表：島田貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長）），分担研究者（2014 年度～2017 年度）

6. 山梨県富士山科学研究所（基盤研究）「富士山周辺における非熟練ボランティアの野外活動の安全確保に関する研究」（代表：池口仁（山梨県富士山科学研究所主任研究員）），共同研究者（2014年度～2016年度）
7. 株式会社ベストバイ「商品レイアウト変更による万引き防止の実験」（代表：雨宮護・福嶋進），2015年度～2017年度
8. 守谷市共同研究（学術指導）「みずき野地区の将来を見据えた長期ビジョン作成のための住民アンケート」，研究代表者（2016年度）
9. つくば市共同研究（学術指導）「道路上における防犯関連設備の効率的配置」，研究代表者（2016年度）

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

1. 村中大輝・雨宮護・大山智也（2016）地方自治体による公共空間への防犯カメラ大規模設置事業の取り組み実態と評価，都市計画論文集，51巻3号，357～364，2016年11月．
2. 木下広章・柴田久・石橋知也・雨宮護・樋野公宏（2016）コンビニエンスストアにおける犯罪発生状況と防犯施策に関する考察：福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー制度を通して，都市計画論文集，51巻3号，350～356頁，2016年11月．

（総説・報告）

1. 雨宮護，まちづくりの実践を通じた学生の教育：社工のアクティブラーニング，つくばスチューデントズ，669号，5頁，2016年6月．

（審査のない雑誌論文・紀要）

1. 遠藤茉弥・雨宮護，都市郊外部における制度に基づく空閑地の暫定利用の成立プロセス：千葉県柏市カシニワ制度を対象として，都市計画報告集，15，pp.114-121，2016年8月．
2. 藤本典志・雨宮護・大山智也，総合リユース店舗における万引きに関連する諸要因の検討，地理情報システム学会講演論文集，25，CD-ROM，2016年10月．
3. 大山智也・雨宮護，地理的犯罪予測手法の日本への適用と検証，地理情報システム学会講演論文集，25，CD-ROM，2016年10月．
4. 高橋麻理・雨宮護，不登校・引きこもり児童の居場所づくりを行うフリースクールの「自然・農業体験」活動の成立プロセスと活動場所の特徴，平成28年度日本造園学会関東支部大会梗概集，34，9-10，2016年11月．

◆ 学会発表等：

1. 米今絢一郎・雨宮護・島田貴仁（2017）空き家に対する自治体の認定と住民の認知との間の相違とその要因，第10回日本環境心理学会，相模女子大学，2017.3.11
2. 島田貴仁・米今絢一郎・大山智也・雨宮護・本山友衣・羽生和紀（2017）犯罪に係る住環境評価尺度，第10回日本環境心理学会，相模女子大学，2017.3.11

3. 大山智也・雨宮護 (2016) 地理的犯罪予測の日本への適用 -RTM,ProMap,SEPP モデル-, 都市の OR ワークショップ, 南山大学, 2016.12.10
4. 島田貴仁・大山智也・雨宮護 (2016) 郵送調査における予告はがきおよびノベルティの種類が回収率に与える影響, 日本行動計量学会第 44 回大会, 札幌学院大学, 2016.9.1 (梗概: 日本行動計量学会第 44 回大会抄録集, pp.298-301)
5. 小出拓也・雨宮護 (2016) 高密度市街地における地先緑化の分布と実施プロセスの解明, 日本造園学会関東支部大会ポスターセッション, 東京情報大学, 2016.11.27
6. 高橋麻理・雨宮護 (2016) 不登校・引きこもり児童の居場所づくりを行うフリースクールの「自然・農業体験」活動の成立プロセスと活動場所の特徴, 日本造園学会関東支部大会, 東京情報大学, 2016.11.27 (梗概: 平成 28 年度日本造園学会関東支部大会梗概集, 34, 9-10)
7. Mamoru Amemiya (2016) Examining the effect of CCTV in public streets: A case study of two Japanese downtown areas, Poster Session, ASC Annual meeting 2016, New Orleans, LA, November 16-19.
8. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2016) How can we apply crime prediction technics to Japan?, Poster Session, ASC Annual meeting 2016, New Orleans, LA, November 16-19.
9. 遠藤茉弥・雨宮護 (2016) 都市郊外部における制度に基づく空閑地の暫定利用の成立プロセス: 千葉県柏市カシニワ制度を対象として, 日本都市計画学会第 51 回学術研究論文発表会・都市計画報告会, 東洋大学, 2016.11.12.
10. 木下広章・柴田久・石橋知也・雨宮護・樋野公宏 (2016) コンビニエンスストアにおける犯罪発生状況と防犯施策に関する考察: 福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー制度を通して, 日本都市計画学会第 51 回学術研究論文発表会, 東洋大学, 2016.11.12.
11. 藤本典志・雨宮護・大山智也 (2016) 総合リユース店舗における万引きに関連する諸要因の検討, 第 25 回地理情報システム学会研究発表大会, 立正大学, 2016.10.15-2016.10.16 (梗概: 地理情報システム学会講演論文集, 25, CD-ROM)
12. 村中大輝・雨宮護・大山智也 (2016) 地方自治体による公共空間への防犯カメラ大規模設置事業の取り組み実態と評価, 日本都市計画学会第 51 回学術研究論文発表会, 東洋大学, 2016.11.12.
13. 雨宮護 (2016) 街頭防犯カメラの効果検証: 繁華街での事例分析, 第 25 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション, 立正大学, 2016.10.15-2016.10.16
14. 大山智也・雨宮護 (2016) 地理的犯罪予測手法の日本への適用と検証, 第 25 回地理情報システム学会研究発表大会, 立正大学, 2016.10.15-2016.10.16 (梗概: 地理情報システム学会講演論文集, 25, CD-ROM)
15. 大山智也・雨宮護 (2016) 地理的犯罪予測手法の日本への適用と検証, 第 25 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション, 立正大学, 2016.10.15-2016.10.16

◆ その他：

著書

1. Tania Lewis (ed), Green Asia: Ecocultures, Sustainable Lifestyles, and Ethical Consumption, "11. Urban Farming in Tokyo: Towards an Urban-Rural Hybrid City", pp.155-268, Routledge, 2017
2. 日本犯罪心理学会編，犯罪心理学事典，第8章「犯罪・非行の予防」のうち「犯罪分析と警察活動」（584～587 頁），「防犯まちづくり」（592～593 頁），「住宅・公共空間の防犯対策」（594～595 頁），丸善出版，2016 年 9 月．

報告書

1. 筑波大学創造的復興プロジェクト：復興関連事業・高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実「多領域と芸術の融合による創造的復興に向けた人材育成プログラムの構築：希望に満ちた日本にするために」平成 27(2015)年度報告書，129 頁，2016 年
2. 情報の発信・共有に関する検討会：安全安心に関する情報の発信・共有のあり方について，21 頁，2016 年

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

1. システム情報工学研究科広報委員
2. 大学の世界展開力強化事業（中南米との大学間交流形成支援）プログラム実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

1. 大学院社会工学専攻広報委員
2. 社会工学類広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

（学会活動）

1. 日本造園学会研究論文集校閲委員（2007 年度～）
2. 日本都市計画学会社会連携委員会委員（2016 年度～）
3. 日本都市計画学会査読委員（2008 年度～2010 年度，2014 年度～）
4. 日本造園学会研究論文集校閲委員（2007 年度～）
5. 日本都市計画学会将来ビジョン検討タスクフォース（2014 年度～2016 年度）
6. 都市住宅学会編集委員（2014 年度～2016 年度）
7. 日本環境心理学会監事（2014 年度～2016 年度）
8. 日本都市計画学会総務企画委員（2012 年度～2016 年度）
9. 日本都市計画学会情報委員（2009 年度～2016 年度）

(学外組織からの委嘱委員等)

1. つくば市「生活安全推進協議会」副会長（2016年度～）
2. 警視庁「子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会」委員（2016年度～）
3. つくば市「都市計画審議会」委員（2016年度～）
4. 台東区「みどりの審議会」副会長（2016年度）
5. 一般財団法人日本緑化センター「筑波研究学園都市における街路樹の維持・再生計画策定検討委員会」委員（2016年度）
6. 国家公務員採用総合職試験（森林・自然環境）試験専門委員（2014年度～2016年度）
7. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015年度～）
8. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015年度～）

(一般向け講演)

1. 雨宮護（2016）「犯罪予測」は可能か？：日本における地理的犯罪予測の可能性，Microsoft CityNext ソリューションフォーラム 2016，JP タワーホール&カンファレンス，2016.5.26
2. 雨宮護（2016）街頭防犯カメラの効果検証，福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー報告会，福岡国際会議場，2016.11.25
3. 春日井市春日井安全アカデミー安全学部基礎教養課程生活安全コース「「持続可能な」防犯まちづくりを考える」（90分）（2016年11月9日）
4. 東京都青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課「地域の危険箇所改善指導者講習会」（300分）（2017年2月9日）

氏 名	有田 智一	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市・地域政策, 都市計画制度、産業集積		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：社会工学実習、都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、都市・地域・環境を語るⅡ（総合科目）、建築関連法規（世話人教員）

社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ、社会工学ファシリテーター（国際交流ワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦Ⅰ（世話人教員）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 不動産流通経営協会研究助成「公民連携を通じた公的不動産の活用を促進する方策に関する研究」（研究代表者）
- ・ 第一生命財団研究助成「容積率ボーナス型都市開発制度の新たな展開可能性ー東京都とニューヨーク市の比較研究」（研究代表者）
- ・ 科学研究費補助金基盤研究 A「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金基盤研究 B「量から質へのシフトを実現するための緑地の計画制度・設計手法・運用方法の研究」（研究分担者）
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

- ・ 渡邊晃佑、有田智一「住民主体の住環境エリアマネジメントの自立プロセスに関する研究」都市計画論文集 51(3), 222-229, 2016

- ・ 太田尚孝、有田智一、服部敦「ドイツにおける時限型・プロジェクト型・非法定型の地域開発手法の仕組みと実態に関する研究」、都市計画論文集 51(3), 1078-1085, 2016
- ・ 有田智一「独・英における新たな都市・地域マネジメントの試みと課題(2)イギリスの広域マネジメント施策 : Local Enterprise Partnership」中部圏研究調査季報 (195), 117-127, 2016-06
- ◆ 学会発表等 :
 - ・ 渡邊晃佑、有田智一「住民主体の住環境エリアマネジメントの自立プロセスに関する研究」都市計画論文集 51(3), 222-229, 2016
 - ・ 太田尚孝、有田智一、服部敦「ドイツにおける時限型・プロジェクト型・非法定型の地域開発手法の仕組みと実態に関する研究」、都市計画論文集 51(3), 1078-1085, 2016
- ◆ その他 :
 - ・ 第 63 回全国建築審査会会長会議招待講演「建築用途の多様化と複合化に伴う建築規制のあり方」大分県別府市 別府国際コンベンションセンター、平成 28 年 10 月 27 日
 - ・ 特別講義、「Ecole des Ponts, Mastère AMUR_ Conference in Tokyo」2017 年 3 月 21 日、東京

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - ・ 全学つくば連携推進室室員
 - ・ 全学学群教育課程委員会委員
 - ・ 地球規模課題学位プログラム運営委員会委員
 - ・ 日越大学公共政策プログラム担当
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等） :
 - ・ 社会工学類カリキュラム委員長
 - ・ 建築士受験資格運営委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 東京都住宅政策審議会委員
- ◆ 東京都住宅政策審議会企画部会委員
- ◆ 東京都住宅政策審議会マンション政策部会委員
- ◆ 東京都マンション共同化建替えモデル事業選定委員会委員長

- ◆ 東京都建築審査会委員
- ◆ 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- ◆ 川崎市建築等紛争調停委員会委員
- ◆ 埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
- ◆ 千葉県松戸市建築審査会委員
- ◆ 守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長
- ◆ 守谷市空家等対策協議会座長
- ◆ 土浦市行財政改革推進委員会委員長
- ◆ 土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長
- ◆ 土浦市空き家等審議会委員長
- ◆ 古河市空き家等審議会委員長
- ◆ 神栖市総合計画進捗状況評価会委員
- ◆ 桜川市都市計画マスタープラン策定委員会委員
- ◆ 中部圏社会経済研究所地域ガバナンス研究会委員
- ◆ 「これからの都市開発・再開発についての研究会：大都市部会」委員（全国市街地再開発協会、株式会社日本建築住宅センター）
- ◆ 日本建築学会建築法制委員会委員
- ◆ 日本建築学会建築法制委員会用途規制再構築検討小委員会主査
- ◆ 日本建築学会都市計画委員会創造的地域文脈小委員会
- ◆ 日本建築学会都市計画委員会創造的地域文脈小委員会 20 世紀計画都市の比較都市計画史 WG 主査
- ◆ 都市住宅学会関東支部常議員
- ◆ 都市住宅学会学術委員会委員
- ◆ 都市住宅学会学会賞委員会委員
- ◆ 応用地域学会学術委員会委員
- ◆ 財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

氏 名	有馬 澄佳	職 名	講師
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	生産システム工学、地域活性化、技術経営とビジネスモデル・イノベーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 生産・品質管理，マネジメント実習，経営の科学 III，問題発見と解決

大学院： 生産・品質管理

◆ 指導学生数：13 名

社会工学専攻 7 名（うち研究生 3 名）

社会工学類 6 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

産学共同研究等：

- 「半導体工場の生産管理最適化手法」（研究代表者：有馬澄佳， H28.10 月～H29.6 月， 220 万円），旭化成マイクロエレクトロニクス（株）→改名：旭化成マイクロシステム(株).
- 「生産管理システムと超受注生産の研究」（研究代表者：有馬澄佳, H28～30 年度, 100 万円/年×3, 太洋電機産業（株）.
- 「半導体工場の生産管理最適化手法の研究に関する学術指導」（有馬澄佳, H28.7 月 5 日～H29.9 月 30 日， 55 万円），旭化成マイクロエレクトロニクス（株）→改名：旭化成マイクロシステム(株).
- ダイバーシティ推進「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」（H28 年 10 月～H29 年 2 月， 19.9 万円）

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

- S. ARIMA, H. MOTOMIYA, Y. AKIYAMA: "Simultaneous Assignments of Multiple Types of Production Resources in Semiconductor Manufacturing," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, MC-O-067 (pp.1-4), IEEE, Dec. 2016.

- S. ARIMA, H. BU, K. KITAMOTO, et.al. "Optimal Production and Capacity Planning for Make-to-Order type Semiconductor Production Systems," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, MC-O-067 (pp.1-4), IEEE, Dec. 2016.
- ◆ 学会発表等：
 - （招待論文）有馬澄佳：「半導体製造における装置/プロセスの監視・予測・処置のための機械学習とデータマイニング手法」，精密工学会 プラナリゼーション CMP とその応用技術専門委員会 第 150 回研究会記念 招待論文集，精密工学会，pp. 1-6，2016 年 6 月 20 日．
 - H. MOTOMIYA, Y. AKIYAMA, S. ARIMA: "Simultaneous Assignments of Multiple Types of Production Resources in Semiconductor Manufacturing," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, MC-O-067 (pp.1-4), IEEE, Dec. 2016, (開催場所：両国 KFC ホール／東京)．
 - H. BU, K. KITAMOTO, S. ARIMA et.al. "Optimal Production and Capacity Planning for Make-to-Order type Semiconductor Production Systems," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2013, MC-O-067 (pp.1-4), IEEE, Dec. 2016, (開催場所：両国 KFC ホール／東京)．
- ◆ その他：研究会オーガナイザー（産学官交流）
 - 2016 教育研究実践プログラム（第 3 回「実践」）「つくば産学官交流セミナー～企業と大学のオープンな対話」（於：高精細イノベーション棟 2 階 206 室・ラウンジ，2017 年 3 月 3 日）．①基調講演②つくば社工の産学連携研究（オーラル 5 件，パネル 9 件）③企業研究．
 - 2016 教育研究実践プログラム（第 2 回「考える」）「産学官技術フォーラム～しごととくらしをガラッと変える IoT」（主催：筑波大学・茨城県，於：筑波大学春日講堂・オークラフロンティアホテルつくば，2016 年 10 月 1 日）．
 - 2016 教育研究実践プログラム（第 1 回「学ぶ」）「産学官技術交流フォーラム」（於：筑波大学第 3 エリア講義棟 A204，2017 年 6 月 30 日）．

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）： 3 年次クラス担任

4. 学外の社会貢献

- 茨城県「中小企業 IoT 等自動化技術導入促進事業」専門家（H28 年度～）
- 茨城県「IoT 推進ラボ」メンバー（上記と兼務）（H28 年度～）
- 論文査読－IEEE：ジャーナル 4 件，国際会議論文 58 件
- IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2016 プログラム委員
- AEC/APC symposium Asia プログラム委員会 副委員長

氏 名	安東 弘泰	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学実習／社会工学専門英語／シミュレーション／

大学院：社会工学のための数学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【受託研究】 SIP 次世代パワーエレクトロニクス「SiC パワーデバイス応用による低容量小型パワー集積回路開発およびパワープロセッシング技術の研究開発」(代表機関：京都大学)(再委託)

【受託研究】 深層学習による音声変換に関する研究, [代表]

NTT 共同研究

【科研費】 2型糖尿病における人工的膵臓刺激装置設計のための数理モデル研究,[代表]
挑戦的萌芽研究

◆ 著書・論文等：

【1】 高原勇, 安東弘泰, 大澤義明, IoT車両情報による実測燃費の地域特性分析ー豊田市実証実験の気候と速度域別の実測燃費ー, 環境共生, Vol. 30 (掲載予定) .

【2】 R. Takahashi, S.-I. Azuma, M. Hasegawa, H. Ando, and T. Hikihara, Power Processing for Advanced Power Distribution and Control, *IEICE transactions on communications*, Vol. E100-B, No. 6 (掲載予定) .

【3】 H. Ando, S.-I. Azuma, and R. Takahashi, A Simulation Study of an Algorithm for Distributing Power Packets in a Network, *Proceedings of the 2016 Symposium on Nonlinear Theory and its Applications*, p. 86, Yugawara, Japan, November 27-30, 2016.

【4】 H. Ando, S.-I. Azuma, and R. Takahashi, Consensus Dynamics in Switching Networks for Distributing Power Packets, *Proceedings of the 6th IFAC Workshop on Distributed Estimation and Control in Networked Systems*, 4 pages, Tokyo, Japan, September 8-9, 2016.

◆ 学会発表等：

【1】安東弘泰，小林幹，時間遅れフィードバックによる多粒子系の拡散制御，第 59 回自動制御連合講演会，システム制御情報学会，北九州，2016 年 11 月 9～12 日．

【2】小林幹，安東弘泰，時間遅れフィードバック法を用いた拡散制御，第 59 回自動制御連合講演会，システム制御情報学会，北九州，2016 年 11 月 9～12 日．

【3】高原勇，安東弘泰，大澤義明，IoT 実測燃費と気候特性との関係-IoT 車両情報の活用と低炭素都市の実現に向けて-第 19 回日本環境共生学会学術大会，日本環境共生学会，東京，2016 年 9 月 17～18 日．

【4】安東弘泰，高原勇，大澤義明，IoT 実測燃費の気候特性解析-自動運転の知能化に向けて-，日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年秋季研究発表会，山形，2016 年 9 月 15～16 日．

【5】高原勇，安東弘泰，大澤義明，IoT 実測燃費の経路特性解析-制限速度の可変性に向けて-，日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年秋季研究発表会，山形，2016 年 9 月 15～16 日．

【6】安東弘泰，小林幹，時間遅れフィードバックによる確率的拡散の制御，非線形問題研究会，電子情報通信学会，Vol. 116, No. 151, pp. 7-8, 札幌，2016 年 7 月 21～22 日．

【7】安東弘泰，電力パケット分配モデルのシミュレーションによる検討，第 60 回システム制御情報学会研究発表講演会，システム制御情報学会，145-5，京都，2016 年 5 月 25～27 日．

その他：

【招待講演】安東弘泰，複雑ネットワークにおけるダイナミクスの予測，平成 28 年度第三回ブレインウェア工学研究会，仙台，2016 年 12 月 7 日．

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
コンピュータ委員（社会工学類、社会工学専攻）
入試実施委員会（社会工学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携
米軍子弟への研究室紹介

氏 名	五十嵐 岳	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 計量経済学/統計 II
 - 大学院： 統計分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 1 人/社会工学学位 P（前期） 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 研究活動スタート支援「境界問題のないノンパラメトリックな多次元密度推定とその応用について」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - Igarash, Gaku (2016) “Weighted log-normal kernel density estimation”, Communications in Statistics - Theory and Methods, 45, 6670-6687.
- ◆ 学会発表等：
 - 2016 年度統計関連学会連合大会，金沢大学，2016 年 9 月
 - 日本数学会 2017 年度年会，首都大学東京，2017 年 3 月(招待講演)
 - 研究集会「第 18 回ノンパラメトリック統計解析とベイズ統計」，慶應義塾大学，2017 年 3 月
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 4 年クラス担任，社会工学専攻広報委員，社会工学類・専攻施設委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - 茨城県立竹園高等学校への出前授業，2016 年 11 月

氏 名	生稲 史彦	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	経営学、技術経営(MOT)、イノベーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経営学、マネジメント実習
 - 大学院 技術経営、ビジネス戦略—理論と実践
- ◆ 指導学生数：
 - 学類 3名
 - 大学院 5名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金（基盤研究(C)）「IT ベース・イノベーションを実現する企業経営の実証研究」（課題番号：26380498）（研究代表者）
 - 科学研究費補助金（基盤研究(B)）「京都ものづくり企業のソーシャルキャピタルとブランド生成の調査分析」（課題番号：26285093）（研究分担者）
 - グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事
- ◆ 著書・論文等：
 - Inamizu, N., Sato, H. and Ikuine, F. (2017) Five Steps in Sales and Its Skills: The Importance of Preparing before an Interview with Customers. *Annals of Business Administrative Science*, 13, 91-103. doi: 10.7880/abas.0161125a (with)
- ◆ 学会発表等：
 - 生稲史彦「開発生産性のディレンマの先にあるもの—産業レベル分析の限界と課題—」第20回進化経済学会東京大会 2015, 2016年3月26日. 東京大学.
<http://webpark1746.sakura.ne.jp/jafee2015/pdf/IkuineFumihiko.pdf>
 - 生稲史彦「製品差別化から生じる同質化—ゲームソフト・ビジネスの事例」組織学会年次大会, 2016年10月9日. 報告要旨 pp.44-51. 上智大学.
 - 西野成昭、原良憲、生稲史彦「一般化フレームワークとしてのサービス・ケイパビリティの提案」サービス学会第5回国内大会, 2017年3月27日. 報告要旨 pp.96-99. 広島県情報プラザ.

◆ その他：

Ikuine, F. “An evolutionary process of the Home video game in Japan- The consequence of the development productivity dilemma” . paper accepted for Replaying Japan 2016, August 15-17 2016, Leipzig, Germany.

生稲史彦 「産業成立の後と前—産業研究の意義—」『古物・骨董の業者間市場のフィールドリサーチ研究のためのセミナー』2016年9月2日，武蔵大学.

生稲史彦 問題意識(Research Question)の立て方—「なにを問題とするか」『MERC 丸の内経営学サロン』2016年9月29日，丸の内コンファレンススクエア・エムプラス.

生稲史彦 「問題意識(Research Question)への取り組み方—「問題をいかに「測る」か」『MERC 丸の内経営学サロン』2016年10月6日，丸の内コンファレンススクエア・エムプラス.

Inamizu, N., Sato, H. and Ikuine, F. A measure of sales skills in Japan: Scale development of Eigyo. ABAS Conference 2016 Autumn, 7th November 2016, GBRC, Tokyo.

Ikuine, F. Innovation pattern of digital industry: An evolutionary process of the Home video game in Japan. Workshop on Innovation in Digital Industries, 23th February 2017, Hitotsubashi University, Kunitachi Tokyo.

清水洋、木村めぐみ、江藤学，生稲史彦 「ゲーム産業生成におけるイノベーションの分野横断的なオーラル・ヒストリー事業」『平成28年度メディア芸術連携促進事業報告会』2017年2月26日，京都国際マンガミュージアム.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
企画室委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 2年生クラス担任
社会システム情報研究科 論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
非常勤講師
東京大学大学院経済学研究科 非常勤講師（ICTマネジメント II）

氏 名	石井 健一	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	消費者行動論・社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：社会調査実習、文化行動論
大学院：消費者行動論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 4人 /社会工学学位(前期) 5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
SNS 利用の心理的効果に関する研究および国家ブランディングに関する最近数年の研究を著書・論文にするため執筆をおこなった。
- ◆ 著書・論文等：
Online communication with strong ties and subjective well-being in Japan, *Computers in Human Behavior* 66 pp129-137
- ◆ 学会発表等：
"Attitudes toward South Korea and Korean Wave in Japan"(日本における対韓意識と韓流), *International Conference for Regional Studies: Regional Variation of the Korean Wave in the Global Era*, 2月21日, 2017年, Korea University(韓国・高麗大学)
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
(9月までサバティカル期間であった)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：
(9月までサバティカル期間であった)

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
日中社会学会理事(2016年6月より)

氏 名	糸井川 栄一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市災害リスク管理、地域安全計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分Ⅱ／都市計画実習／都市防災計画／都市計画事例講義および演習
大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／リスク工学専攻前期課程 10人／リスク工学専攻後期課程 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

・市街地火災時の安全な避難を目指した住民の初期消火活動効果とその限界に関する研究

◆ 著書・論文等：

- (1) 渋谷孝行，糸井川 栄一，延焼クラスタを考慮した地震火災時における避難危険性評価に関する研究，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 29，2016. 11，pp. 95-105
- (2) 齋藤愛美，梅本通孝，糸井川栄一，自主防災組織の活動能力の定量的評価の試み，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 29，2016. 11，pp. 37-46
- (3) 大金誠，梅本通孝，齋藤愛美，糸井川栄一，自主防災活動への現役世代の参加促進に関する研究－茨城県東海村を対象として－，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 29，2016. 11，pp. 197-205
- (4) 田中皓介，梅本通孝，糸井川栄一，既往研究成果の系統的レビューに基づく大雨災害時の住民避難の阻害要因の体系的整理，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 29，2016. 11，pp. 185-195
- (5) 糸井川栄一，富塚伸一郎，ヘリコプター空中散水による市街地火災時の延焼遅延効果に関する研究，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 30，2017. 3，現時点ではHP 公開

◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績

- 糸井川栄一，避難限界時間に基づく地震火災時の避難リスク評価，2016 年度日本建築学会大会(九州)防火部門研究協議会 市街地火災と避難シミュレーション，日本建築学会，2016.8，pp.18-27

- 鈴木雄太, 糸井川栄一, 地震津波時における消防団員の参集意向ー千葉県 8 市町村の沿岸部消防団を対象としてー, 地域安全学会梗概集, No.39, 2016.11, pp.41-44
- 小宮賢祐, 糸井川栄一, 大学生が災害ボランティアに参加するプロセスの検討ー常総市の災害ボランティアを対象としてー, 地域安全学会梗概集, No.39, 2016.11, pp.139-142

◆ その他： ※受賞、特許等などの実績
なし

3. 学内運営

- ◆ 系や全学組織等の業務への貢献：

本部全学リスク管理室員／システム情報工学研究科早期修了プログラム実施委員会委員
／システム情報系コンプライアンス推進委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 3 年生クラス担任
リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員/GP アクション委員会委員/大塚キャンパス
対策委員会委員長/教育企画委員会委員/施設委員会委員長/将来戦略 WG コアメンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）、学外から委嘱された委員、兼業など。
 - (1) 地域安全学会 理事／会長／査読
 - (2) 日本建築学会 広域避難小委員会委員／査読
 - (3) 日本都市計画学会 査読
 - (4) 国土交通省 「建築防火基準委員会」 委員(2011～)
 - (5) 独立行政法人建築研究所 客員研究員（2008～）
 - (6) 東京都 「避難場所調査検討委員会委員」
 - (7) 東京消防庁 「第 22 期火災予防審議会」 委員・地震防災部会長（2015～）
 - (8) 茨城県 「茨城県国土強靱化地域計画有識者会議員」 委員
 - (9) 茨城県 「茨城県地震被害想定業務委託に関するプロポーザル審査委員会」 委員
 - (10) 茨城県 「茨城県地震被害想定の見直しに係る減災対策検討会議(仮称) 委員」 委員
 - (11) 神栖市 「神栖市総合防災訓練における防災講演会」 講師(2013～)
 - (12) 鹿嶋市 「鹿嶋市学校防災教育推進委員会」 委員長(2012～)
 - (13) 地域安全学会 「文部科学省平成 28 年度リスクコミュニケーションのモデル形成事業に係る特別委員会」 委員
 - (14) 三菱総合研究所 「地域別出火危険度測定(第 9 回)に関する調査研究委員会」 委員長
 - (15) 株式会社 アルテップ 「防火避難総合技術開発プロジェクトに関わる WG」 委員
 - (16) 日本都市計画コンサルタント協会 「認定都市プランナー口頭審査試験官」

(17) 日本學術振興會 「科学研究費委員會」專門委員

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学，データマイニング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学／統計 I/ 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/
リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習（分担）/社
会システム工学特別演習 I（分担）/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究
/特定課題研究（分担）

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人 / リスク工学専攻博士前期課程 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「多次元クラスター尺度構成法によるビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

◆ 著書・論文等：

(1) M. Sato-Ilic, Individual Compositional Cluster Analysis, Procedia Computer Science, Elsevier, Vol. 95, pp. 254-263, 2016

(2) M. Sato-Ilic, P. Ilic, Visualization of Fuzzy Clustering Result in Metric Space, Procedia Computer Science, Elsevier, Vol. 96, pp. 1666-1675, 2016

◆ 学会発表等：

基調講演：

M. Sato-Ilic, Soft Data Analysis Based on Cluster Scaling, Soft Computing Applications (SOFA) 2016, August 25, 2016, Arad (Rumania)

◆ その他：

JANOS FODOR Award, M. Sato-Ilic, Soft Data Analysis Based on Cluster Scaling, Soft Computing Applications (SOFA) 2016, August 25, 2016, Arad (Rumania)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ 学生生活支援室員
- ・ システム情報工学研究科企画室員
- ・ セクハラ筑波キャンパス相談員
- ・ 研究者倫理検討委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ リスク工学専攻達成度評価チェック委員会委員長
- ・ リスク工学専攻 M1 担当教員
- ・ リスク工学専攻カリキュラム委員会委員
- ・ リスク工学専攻将来戦略 WG コアメンバー
- ・ 社会工学類カリキュラム委員会委員

4. 学外の社会貢献

海外業務：

- ・ Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・ Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・ Publicity & Public Relations Chair, IEEE WCCI2018
- ・ Associate Editor of the IEEE Transaction on Fuzzy Systems (TFS), USA
- ・ Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・ Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・ Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)

- IEEE Senior Member
- Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- Examiner of Ph.D. Thesis at the University of South Australia
- Board Member of International Society of Management Engineers

その他:

- 日本知能情報ファジィ学会評議員
- 日本分類学会運営委員
- 千葉県立船橋高校カレッジ（出前講義）「社会におけるデータ解析の役割」2016/11/17

氏 名	上市 秀雄	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定論, 認知心理学, 社会心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経済行動論／社会経済システム情報実習／

大学院 消費者心理分析

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名／社会工学専攻博士前期課程 2名／博士後期課程 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、裁判員制度参加意向を規定する要因の分析、更正支援活動を促進する要因の解明、環境保全行動など

◆ 国際会議：

1. Ueichi, H. & Tuya, K. (2016). Factors influencing differences between useful and useless regret. 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (Yokohama, JPN), PS28A-12-98.
2. Imai, Y., Ueichi, H., Takagawa, S., Kadoya, T., & Takamura, N. (2016). Effect of self-efficacy and social norms on behavioral intentions for nature conservation. 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (Yokohama, JPN), PS27A-11-131.
3. Muromachi, Y., & Ueichi, H. (2016). The relationships between a metacognition scale and adaptive behavior in the regret situations: A comparison between junior high-school and university students. 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (Yokohama, JPN), PS27P-01-6
4. Sanai, S., & Ueichi, H. (2016). The relationship between quantity of information contact and public evaluation of volunteer probation officers to promote understanding for social reintegration support. 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (Yokohama, JPN), PS26A-01-24.
5. Oda, Y., Ueichi, H., & Kikuchi, K. (2016). Frequency of grooming the eyebrows and cosmetic consciousness in men. 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (Yokohama, JPN), PS25P-04-34.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
AC 専門委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院入試実施委員，大学院広報委員、学類 3 年クラス担当

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
- ◆ 学術論文・国際会議査読
心理学研究
認知科学
社会心理学研究
リスク研究学会誌

氏 名	牛島 光一	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	教育の経済学、健康の経済学、開発経済学、応用計量経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：統計Ⅱ、都市経済学、地域科学演習

大学院：公共政策論

◆ 指導学生数：

社会工学類：1名

社会工学専攻：(実質指導) 博士3名、修士3名、(副指導) 修士7名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

(1) 科学研究費 若手研究 (B)「公共政策が子供への健康投資行動に与える影響に関する実証研究」(代表)

(2) 公益財団法人村田財団研究助成(親の教育水準の向上による子供の健康格差縮 代表者：牛島光一、2015-07～2016-06、100万円)

◆ 著書・論文等：

(査読有り論文)

(1) The Impact of a High-speed Railway on Residential Land Prices (with Hiroshi KANASUGI), *Papers in Regional Science*, DOI: 10.1111/pirs.12293. *forthcoming*

(2) 東京オリンピック・パラリンピックの開催決定で住宅地地価は上昇するか？
香川涼亮、小倉利仁、太田充共著)、『都市住宅学』. *Forthcoming*

(3) 大気環境が地価に与える影響 ―東京都特別区の地価データを用いた検証―
(姜哲敏、太田充共著)、『応用地域学研究』、No.20, pp.67-77, 2016.

◆ 学会発表等：

(1) 「人々はディーゼル車排出ガス規制にどれくらいの便益を感じたか？」, 第11回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会, 於 北海道大学, 2017年3月10日.

(2) 「人々はディーゼル車排出ガス規制にどれくらいの便益を感じたか？」, Policy Modeling Workshop, 於 政策研究大学院大学, 2017年3月6日.

- (3) “Can Higher Educated Mother Assess Child Health More Properly?,” 2016 年度応用地域学会, 於 神戸大学, 2016 年 11 月 27 日.

◆ その他 :

(指導学生の受賞)

- 辻本隆宏 : 最優秀論文賞, 第 11 回応用計量経済学カンファレンス 2016 年 11 月
- 姜哲敏 : 優秀論文賞, 第 11 回応用計量経済学カンファレンス 2016 年 11 月

(サークル顧問)

- FreeEducation (教育ボランティアサークル)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - 1 年生第 6 クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - 守谷市行政改革推進委員
 - 足立区との研究協力協定・職員派遣協定に基づく行政評価プロジェクト

氏 名	梅本 通孝	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 社会工学実習/都市防災計画
 - 大学院： 都市構造システム論/リスクマネジメント序論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0人/リスク工学専攻(前期) 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費（基盤研究(C)）「沿岸地の防災と観光の両立に向けた住民・一時来訪者の津波避難のリスク評価と改善方策」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
 - 齋藤愛美，梅本通孝，糸井川栄一：活動の実質化と持続性に着目した自主防災組織の活動度の定量的評価の試み，地域安全学会論文集，No. 29，pp. 37-46，2016. 11
 - 田中皓介，梅本通孝，糸井川栄一：既往研究成果の系統的レビューに基づく大雨災害時の住民避難の阻害要因の体系的整理，地域安全学会論文集，No. 29，pp. 185-195，2016. 11
 - 大金誠，梅本通孝，齋藤愛美，糸井川栄一：自主防災活動への現役世代の参加促進に関する研究—茨城県東海村を対象として—，地域安全学会論文集，No. 29，pp. 197-205，2016. 11
 - 梅本通孝：液状化に関わる市街地整備のリスクマネジメントと都市計画技術のあり方に関する研究，旭硝子財団 助成研究成果報告(2016)，No. 64，2016.
- ◆ 学会発表等：
 - 梅本通孝：液状化に関わる市街地整備のリスクマネジメントと都市計画技術のあり方に関する研究，2016 旭硝子財団 助成研究発表会，東京都新宿区，2016. 7. 29
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 委員
 - リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 コアメンバー
 - リスク工学専攻 広報委員会 委員
 - リスク工学専攻 将来戦略構想検討 WG メンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - 地域安全学会 理事
 - 日本自然災害学会編集委員会 委員
 - 日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員
 - 地域安全学会論文集 査読者
 - 日本建築学会論文集 査読者
 - 日本都市計画学会論文集 査読者
 - 日本地震工学会論文集 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - 常総市水害対策検証委員会 委員(委員長代理)
 - 東京消防庁火災予防審議会 委員
 - 東京消防庁火災予防審議会地震対策部会 委員
 - 東京消防庁火災予防審議会地震対策部会小部会 委員
 - 東京消防庁火災予防審議会防火防災訓練手法に関する調査研究委員会 委員
 - 茨城県稲敷市都市計画審議会 会長
 - 茨城県県民大学講座 講師
- ◆ 講演等
 - 梅本通孝：「助け合う地域づくり」で自然災害から命を守る，平成 28 年度茨城県県西生涯学習センター県民大学講座，筑西市，2016. 7. 21
 - 梅本通孝：ピンチもチャンスもミカタ次第，つくば秀英高校高大連携プロジェクト 2016 ワカモノ目線*ソトモノ目線からのまちづくり提案，つくば市，2016. 8. 1
 - 梅本通孝：多発する自然災害へのリスクマネジメント，平成 28 年度茨城県県西生涯学習センター県民大学講座，筑西市，2016. 8. 4

氏 名	大久保 正勝	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習

大学院： 資産価格理論

◆ 指導学生数：

社会工学類 0人/社会工学学位（前期）1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 基盤研究（C）「モデル不確実性回避度の計測と異質性の国際比較」

（研究代表者）

筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ミクロ計量経済学的分析手法の開発と応用」

（研究代表者）

筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ビックデータと地理空間情報を利用した我が国の産業・企業研究」（サポートメンバー）

◆ 著書・論文等：

Masakatsu Okubo, “On the Computation of Detection Error Probabilities under the Normality Assumption,” mimeo.

Masakatsu Okubo, “International Evidence on Welfare Gains from Eliminating Model Uncertainty,” mimeo.

◆ 学会発表等：

第 42 回経済理論・政策ワークショップ 演題「Model Uncertainty and International Differences in Risk Aversion」（2016 年 12 月 3 日）

◆ その他：

なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学園祭委員、総合科目編成部会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
入試実施委員会委員、学生担当委員、卒業論文梗概集編集委員、学類4年クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
なし

氏 名	大澤 義明	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画, 地域科学, 社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 微積分 I／都市解析／都市計画マスタープラン策定実習／都市計画事例講義および実習／つくばの景観を考える／都市・地域・環境を探る I, II, III／巨大地震による複合災害

大学院： 都市地域解析学／サービス工学特別講義Ⅳ／公共インフラ設計／エンパワーメント情報学プログラムシステムデザイン／エンパワーメント情報学プログラムアドバンストチュートリアル演習

◆ 指導学生数：社会工学類 3人／社会工学専攻（前期）6人／社会システム・マネジメント専攻 2人／社会工学専攻（後期）2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- [1] 老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究．基盤研究A．研究代表者
- [2] 公共施設配置における住民投票の意義—投票制度は経済効率をどの程度悪化させるのか—．挑戦的萌芽研究．研究代表者．
- [3] 戦略的イノベーション創造プログラム・道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究，科学技術振興機構．研究開発責任者．
- [4] まちなか再生事業に関する研究．共同研究（津別町）．研究代表者．
- [5] 高・大・官連携による常総市まちづくり提案．共同研究（常総市）．研究代表者．
- [6] 次世代社会システムとモビリティの新価値研究．共同研究（トヨタ自動車）．研究代表者
- [7] R E S A Sを活用した政策提言手法の開発．共同研究（常陽産業研究所）．研究代表者．

◆ 著書・論文等：

- [1] 高原勇，赤澤邦夫，大澤義明（2016）：時空間アクセスから見た移動式サービスステーションの効果．日本計画行政学会，39（4），pp.45-52．

- [2] 高原勇, 大澤義明 (2016) : 自動車に残るエネルギー量の推定と被災地域への応用. *日本計画行政学会*, 39 (4), pp. 53-60.
- [3] 松枝千尋, 大澤義明 (2016) : 投票力指数の空間的偏在—どの住民が施設配置キャスティングボードを握るのか—. *応用地域学研究*, 20, pp. 79-92.
- [4] 高原勇, 大澤義明, 湊信乃介 (2016) : 矩形都市移動時における太陽光逆光割合. *G I S—理論と応用*, 24(2) , pp. 105-114.

◆ 学会発表等 :

- [1] 若林優妃, 野口宇宙, 高原勇, 大澤義明 (2016) : 燃料電池車及び水素ステーションの空間的配備—IoT 車両位置情報の活用に向けて—. *オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年秋季研究発表会*, pp. 98-99.
- [2] 安東弘泰, 高原勇, 大澤義明 (2016) : IoT 実測燃費の気候特性解析—自動運転の知能化に向けて—. *オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年秋季研究発表会*, pp. 100-101.
- [3] 高原勇, 安東弘泰, 大澤義明 (2016) : IoT 実測燃費の経路特性解析—制限速度の可変性に向けて—. *オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年秋季研究発表会*, pp. 102-103.
- [4] 高原勇, 大澤義明 (2016) : 『IoT』をタイトルに含む書籍群. *応用地域学研究*, 20, pp. 155-157.
- [5] 大澤義明 (2016) : 「まちづくりの新展開—共通言語は数字—」. *茨城県測量設計コンサルタント協会茨測協*, 創刊号, pp. 12-13.
- [6] 長晃, 木村雅志, 成島大悟, 大澤義明, 吉瀬章子 (2017) : 筑波大学高大連携シンポジウム 2016—若い世代による地方創生—ルポ. *オペレーションズ・リサーチ*, 62(1), pp. 122-125.
- [7] 難波洸子, 若林優妃, 小林隆史, 大澤義明 (2017) : 高大連携と地域経済分析—若い世代による地方創生—. *オペレーションズ・リサーチ学会 2017 年春季研究発表会*, pp. 185-186.
- [8] Donglai Ma, Yoshiaki Ohsawa, Norimitsu Ishii (2017) : Analysis of the precipitation change and the relationship with population change in Japan. *オペレーションズ・リサーチ学会 2017 年春季研究発表会*, pp. 189-190.
- [9] 堀龍一, 佐藤桂樹, 石井儀光, 大澤義明 (2017) : 扇形領域内の平均距離—移動体による電源支援政策の検証—. *オペレーションズ・リサーチ学会 2017 年春季研究発表会*, pp. 193-194.
- [10] 小林隆史, 川島宏一, 栗野盛光, 大澤義明 (2017) : 被災地派遣職員へのアンケートによる職務経験と業務内容との齟齬把握. *オペレーションズ・リサーチ学会 2017 年春季研究発表会*, pp. 395-396

◆ その他 :

受賞

- [1] 第 18 回日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞 (2017 年 3 月)

講演

- [1] 平成 28 年度茨城県建築士会まちづくり委員会 歴史から学び未来へ続く「水害に備えたまちづくり・家づくり」(2016 年 9 月 24 日, 常総: 常総市地域交流センター)
- [2] リハビリテーション・ケア合同研究大会茨城 2016「歩いて暮らせるまちづくり」(2016 年 10 月 29 日, つくば: 国際会議場)
- [3] 平成 28 年度栃木県, 地域経済分析システム (RESAS) 普及促進事業 RESAS 普及シンポジウム, 基調講演「地方創生の実践的取組と RESAS 活用について」(2017 年 1 月 23 日, 宇都宮: 栃木県総合文化センター)

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
社会工学域予算委員長, 社会工学類予算委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - [1] 応用地域学研究・編集長 (応用地域学会)
 - [2] 日本都市計画学会・会長アドバイザー (日本都市計画学会)
 - [3] 日本オペレーションズ・リサーチ学会・代議員 (日本オペレーションズ・リサーチ学会)
 - [4] 土木学会・技術推進機構・上席研究員 (土木学会)
 - [5] 土木学会・アセットマネジメントシステム実証のための実践研究委員会・委員 (土木学会)
- ◆ 自治体等
 - [1] 県立カシマサッカースタジアム大型映像装置改修工事にかかる技術提案審査委員会・委員長 (茨城県)
 - [2] 筑波研究学園都市における街路樹の維持・再生計画・委員長 (茨城県)
 - [3] 水郷筑波サイクリング環境整備総合計画策定委員会・委員 (茨城県)
 - [4] 茨城県リサイクル製品認定審査会・会長 (茨城県)
 - [5] 土浦市総合企画審議会・会長 (土浦市)
 - [6] 土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長 (土浦市)
 - [7] 土浦港周辺広域交流拠点基本計画策定委員会・委員長 (土浦市)
 - [8] 土浦市中心市街地活性化協議会・副委員長 (土浦市商工会)
 - [9] つくば市建築審査会・会長 (つくば市)
 - [10] つくば市明るいまちづくり協議会・会長 (つくば市)
 - [11] つくば市生活安全協議会・会長 (つくば市)
 - [12] つくば市ホテル等建設審議会・会長 (つくば市)

- [13] 石岡市都市計画審議会・副会長（石岡市）
- [14] 石岡市景観調査委員会・委員長（石岡市）
- [15] 常総市復興計画策定委員会・委員長（常総市）
- [16] 水戸市景観調査委員（水戸市）
- [17] 潮来市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長（潮来市）
- [18] 神栖市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議・委員（神栖市）
- [19] 取手市社会資本整備総合交付金評価委員会・委員長（取手市）
- [20] 学校法人茗溪学園・評議員（茗溪学園）
- [21] 茨城県立土浦第一高等学校・評議員（土浦第一高等学校）
- [22] 重要文化財旧茨城県立土浦中学校本館運営検討委員会・委員会（土浦第一高等学校）
- [23] 茗溪会・理事（一般社団法人茗溪会）
- [24] 中川育英会・評議員（公益財団法人中川育英会）
- [25] 筑波研究学園都市長期ビジョン検討会議・委員（一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構）

◆ 高校出張講義・高校発表会講評

- [1] 竹園高等学校 第8回探Q研究成果発表会（2017年2月3日）

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業

- [1] つくば秀英高等学校（2016年8月）
- [2] 津別高等学校（2016年8月）
- [3] 水海道第一高等学校，水海道二高等学校，石下紫峰高等学校（2016年8月）

氏 名	太田 充	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング実習
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0人／社会工学専攻 8人／社会システム・マネジメント専攻 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金基盤研究(C)
「新たな集積効果関数を用いた都市一般均衡モデルの構築」(代表)
科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
「Radon 測度上の動的システムの研究と都市構造遷移モデルへの応用」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
『集積の経済学』、東洋経済新報社(2017/1/27)、単行本(翻訳)
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
附属図書館運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：
学生担当教員、論文委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
都市住宅学会理事、都市住宅学会総務企画委員会副委員長
応用地域学会運営委員会委員

氏 名	岡田 幸彦	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学類 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	会計学、サービス工学、社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：社会工学実習/会計学概論/マネジメント実習/社工英語

大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/ビジネス戦略：理論と実践（社会工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講1（スポーツウェルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講2（スポーツウェルネス学位プログラム）

学外：京都大学大学院経営管理研究科 サービス（無形資産）会計/土浦第一高校 SGH 入門セミナー、産業経理協会 サービス原価会計講座など

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人/社会工学学位プログラム（修士）3 人/サービス工学学位プログラム（修士）13 人/社会工学学位プログラム（博士）3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 研究代表者：科研費（若手 B）「わが国サービス企業における原価計算・原価管理の成功モデルに関する実証的研究」（2014～2017 年度、総額 377 万円）
- ・ 研究代表者：共同研究（茨城県常総市）「常総市まち・ひと・しごと総合戦略マネジメントシステムの共同研究（2015～2016 年度、総額 813.68 万円）
- ・ 研究代表者：TIA「かけはし」「“サービス工学×ビッグデータ”のイノベーション・アーリーナ形成」（2016 年度、総額 150 万円）
- ・ 研究代表者：共同研究（本田技術研究所）「安全運転教習サービス工学」（2016 年度、総額 495 万円）

◆ 著書・論文等：

- ・ 田口 莊輔・大江秋津・岡田幸彦(2016)「創業活動における人的な情報処理過程に関する実証分析－実態に即したビジネスプランとの関係で－」『経営情報学会誌』25(3)。
- ・ H. Takagi, Y. Okada, A. Yoshise, and M. Shigeno (2016) “Creation of Service Science Curriculum for Customer-Oriented Business Innovation,” Stephen K. Kwan et al. (Eds), Global Perspectives on Service Science: Japan, Springer.

- ・ 土岐大介・岡田幸彦(2016)「フィンテック：「私だけの金融サービス」時代の到来と意思決定プロセスの変革」『一橋ビジネスレビュー』64(2)。
- ・ 生方裕一・岡田幸彦・松尾貴巳「大規模災害に被災した自治体における PDCA サイクルの有効範囲：常総市の事例から」日本会計研究学会発表論文。
- ・ 岡田幸彦・田口荘輔・大江秋津「創業過程における会計機能の役割に関する基礎的分析」日本会計研究学会発表論文。

◆ 学会発表等：

- ・ “サービス工学×ビッグデータ”のイノベーション・アリーナ形成、岡田幸彦、第 29 回東京大学人工物コロキウム「人と社会と人工物が交差するシステム」、2017 年 2 月。
- ・ “サービス工学×ビッグデータ”のイノベーション・アリーナ形成、岡田幸彦、統計数理研究所サービス科学研究センター最終年度シンポジウム、2017 年 1 月。
- ・ “サービス工学×ビッグデータ”の可能性、岡田幸彦、第 7 回横幹連合コンファレンス、2016 年 11 月。
- ・ 創業過程における会計機能の役割に関する基礎的分析、岡田幸彦・田口荘輔・大江秋津、日本会計研究学会全国大会、2016 年 9 月。
- ・ 大規模災害に被災した自治体における PDCA サイクルの有効範囲：常総市の事例から、生方裕一・岡田幸彦・松尾貴巳、日本会計研究学会全国大会、2016 年 9 月。
- ・ “サービス工学×ビッグデータ”のイノベーション・アリーナ形成、岡田幸彦、第 7 回 TIA シンポジウムー新たな連携の「かけはし」ー、2016 年 7 月。

◆ その他： なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

理工学群広報委員会・委員

人工知能科学センター運営準備委員会 委員

筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類広報委員会・委員長

大学院社会工学専攻広報委員会・委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- ・ 統計数理研究所 客員准教授（無報酬）
- ・ インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ 発起人・学会会員（無報酬）

- ・ 土浦第一高校スーパー・グローバル・ハイスクール 筑波大学代表（無報酬、セミナー講演等については規定に基づく報酬有）
- ・ 公益財団法人清国奨学会 非常勤理事（工学系学生への奨学事業、無報酬）
- ・ 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 事務局（無報酬）
- ・ 水戸信用金庫 非常勤理事（報酬有、月 10.8 万円（旅費等込））
- ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員（無報酬）
- ・ 日本スポーツ振興センター アンチ・ドーピングに係るインテリジェンス活動推進会議 委員（無報酬）

氏 名	岡本 直久	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾・物流		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン策定実習／情報リテラシー・演習
／社会基盤と国土

大学院 社会基盤計画学／観光の科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

社会工学専攻(博士前期課程・社会工学学位プログラム) 6人

社会工学専攻(博士後期課程・社会工学学位プログラム) 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費 基盤研究(B) 複数の観光交通データの融合的活用方法の開発と政策評価への展開（研究代表者）
- ・ 科学研究費 基盤研究(B) 交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開（研究分担者）
- ・ 科学研究費 基盤研究(C) 観光振興のためのマーケットデザインに関する研究－効果的な日本型DMO構築に向けて（研究分担者）
- ・ 委託研究費 戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究（研究分担者）
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム:道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究（科学技術振興機構、研究分担者）

◆ 著書・論文等：

- ・ 効果的な鉄道の安全対策が新たな課題を惹起する ―「安全の4M」と「リスク」の体系化による考察とマネジメントの重要性―：実践政策学，第1巻第1号，pp.77-87，共著（片方 喜信・石田 東生・岡本 直久），2015年

➤ 学会発表等：

- ・ ガソリンスタンドの経営収支と需要を考慮した存続可能性に関する研究：土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 53，CD-ROM 講演番号：18-04，共著（大山倫正・石田東生・岡本直久），2016 年 5 月
- ・ 高齢者の交通環境改善に向けた新たな交通手段の利用可能性に関する研究：土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 53，CD-ROM 講演番号：36-07，共著（高橋一貴・石田東生・岡本直久・近藤美則・滝雅人・富田真紀），2016 年 5 月
- ・ 人口分布統計データを活用した観光地の特性把握：土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 54，CD-ROM 講演番号：130，共著（田中敦士・岡本直久・鈴木俊博・浅野礼子・白川洋司），2016 年 11 月
- ・ ガソリンスタンドの需要分析に基づいた存続可能性に関する考察：土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 54，CD-ROM 講演番号：203，共著（大山倫正・石田東生・岡本直久），2016 年 11 月
- ・ 東京近郊観光地におけるインバウンド観光プロモーション施策の考察：土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 54，CD-ROM 講演番号：P60，共著（柳瀬朝木・栗原剛・鎌田実優・岡本直久）：2016 年 11 月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学群入学試験実施委員会委員
日越大学 公共政策プログラム幹事校幹事
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 専攻入試実施委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動（行政委員、学会活動等）
 - ・ 第 10 回全国貨物純流動調査の分析・とりまとめに関する検討会：国土交通省総合政策局：委員
 - ・ 港湾局関係公共事業評価手法研究委員会：国土交通省港湾局：委員
 - ・ コンプライアンス・アドバイザー委員会：国土交通省関東地方整備局：委員
 - ・ 茨城県移動性・安全性向上委員会：国土交通省関東地方整備局：委員長
 - ・ 茨城県国土強靱化地域計画有識者会議：茨城県：委員
 - ・ 茨城県公共交通活性化会議：茨城県：代表幹事
 - ・ 茨城県公共事業再評価委員会：茨城県：委員

- ・ 茨城県茨城県地方港湾審議会：茨城県：副会長
- ・ 土浦市公共交通活性化協議会：土浦市：会長
- ・ 牛久市地域公共交通会議：牛久市：副会長
- ・ 下妻市地域公共交通会議：下妻市：副会長
- ・ 取手市都市計画審議会：取手市：委員
- ・ 筑西市「道の駅」整備推進協議会：筑西市：会長
- ・ 潮来市地域公共交通活性化協議会：潮来市：委員
- ・ 佐野市専門委員
- ・ Eastern Asia Society for Transportation Studies：事務局長

氏 名	奥島 真一郎	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	国際総合学類 (専任)、社会工学類		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学概論Ⅴ（国際総合学類必修科目）/総合科目Ⅱ（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）/都市計画実習（社会工学類開講国際総合学類共通）

大学院 公共政策論（社会工学専攻）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 8人/社会工学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

ニッセイ財団環境問題研究助成（代表）

住友財団環境研究助成（一般研究）（代表）

◆ 著書・論文等：

“Measuring Energy Poverty in Japan, 2004-2013”（単著） *Energy Policy*, 98, November 2016, pp. 557-564.

“Effect of Information Presentations on Consumer Emotions to Induce Power Saving Actions”（共著） *IEEE International Smart Cities Conference (ISC2) Proceedings*, pp. 821-826, September 2016.

“How Can We Gauge Energy Poverty? A Multidimensional Approach”（単著） *Proceedings of the 11th Conference of Sustainable Development of Energy, Water, and Environment Systems*, September 2016.

◆ 学会発表等：

“Effect of Information Presentations on Consumer Emotions to Induce Power Saving Actions”（共同発表） IEEE International Smart Cities Conference (ISC2), University of Trento, Trento, Italy, September 15, 2016.

“How can we gauge energy poverty? A multidimensional approach” The 11th Conference of Sustainable Development of Energy, Water, and Environment Systems, Congress Centre of Instituto Superior Técnico, Lisbon, Portugal, September 5, 2016.

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

国際総合学類二年生クラス担任

国際総合学類カリキュラム委員

国際総合学類シス情 TA 担当委員

国際総合学類総合科目担当委員

大学院カリキュラム委員

全学グローバルコモンズ機構国際交流支援部門企画審査委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員

筑波大学付属駒場高校研究室訪問、模擬授業

氏 名	甲斐田 直子	職 名	助教
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 持続環境科学専攻	専任 兼任	
専攻 (博士前期課程)	持続環境科学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	環境経済学、環境心理学、環境配慮行動研究、持続性研究		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 都市環境評価論／都市・地域・環境を探る II
大学院 Introduction to Environmental Policy／環境政策概論
- ◆ 指導学生数 :
社会工学類 1 名／環境科学専攻 3 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
- ◆ 科学研究費 (若手研究 A) 「価値観に根ざした環境配慮行動の提案 : 東洋・西洋社会における横断・縦断研究」 (代表)
科学研究費 (挑戦的萌芽研究) 「環境配慮行動と充足感のポジティブな連鎖に関する縦断的研究」 (代表)
科学研究費 (基盤 (B) 海外学術調査研究課題) 「マレーシア汚濁淡水源におけるエコゲノミクスを用いた浄水処理障害微生物の実態調査」 (分担)
日本学術振興会 (課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業 (領域開拓プログラム)) 「エネルギー政策・言説の日独地域比較」 (分担)
- ◆ 著書・論文等 :
Kaida, K., & Kaida, N. (2017). Wake up for the environment: An association between sleepiness and pro-environmental behavior. *Personality and Individual Differences*, 104, 12-17.
Nordin, N.H., Hara, H., & Kaida, N. (2017). Integrating environmental management into food safety and food packaging in Malaysia: Review of the Food Regulation 1985. *IOP Conf. Series: Earth and Environmental Science*, XX-XX. (2017.03.15 受理)
Kaida, N., & Kaida, K. (2016). We don't talk about hope, In L. Bormans (Ed.), *The world book of hope: The source of happiness, success & strength* (pp.154-157). Tielt, Belgium: Lanoo Publishers.

◆ 学会発表等：

Kaida, N. (2016). Mirco satisfaction as a mediating factor between pro-environmental behavior and subjective well-being, European Conference on Positive Psychology 2016, June 2016, Angers.

Kaida, N. (2016). Strongly attached but not so happy? Comparing the relationship between place attachment and subjective well-being in native and non-native residents in Ibaraki, Japan, International Convention of Psychology 2016, July 2016, Yokohama.

Kaida, K. and Kaida, N. (2016). Sleepiness correlates with subjective well-being and pro-environmental behavior, 2016 American Psychological Association Convention, August 2016, Denver.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

JUC 防災小委員会事務局（マレーシア日本国際工科院に新設予定の防災修士プログラムに対する日本国内支援大学コンソーシアム内小委員会）
筑波大学マレーシアオフィス運営委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類：入試実施委員会、学生支援委員会

社会工学専攻：留学生支援委員会、学生相談室

環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、学際専攻再編準備室 MJIIT
国際共同学位プログラム検討 WG

4. 学外の社会貢献

◆ 茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員

◆ 茨城県鹿島市立平井小学校学校地域防災力強化委員会

氏 名	川島 宏一	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	オープンデータ、自治体情報戦略、都市開発戦略		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類： 専門英語（都市計画）、都市と地域の経営行政論、現代まちづくりの理論と実践、都市計画実習

サービス工学学位プログラム： 公共インフラ設計

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 名

社会工学専攻サービス工学学位プログラム 2 名

社会工学専攻博士後期課程 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ World Wide Web Foundation 委託調査「日本政府のオープンデータ政策評価（2016 年度）」（代表）
- ・ ケープレックス・インク委託研究「公共サービスの革新に関する研究」（代表）
- ・ 2016 年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト「東京都（オリンピック・パラリンピック開催地）AED 情報データベース」（代表）
- ・ 2016 年度トヨタ自動車共同研究「犯罪情報のオープン化がもたらす犯罪抑止効果に関する研究」（代表）
- ・ 科学研究費 挑戦的萌芽「パレート効率的な自治体連携の可能性と限界-マッチング理論による地方創生-」（分担者）

◆ 著書・論文等：

- ・ 平成 27 年常総市鬼怒川水害に関する検証報告書（平成 28 年 6 月 13 日常総市水害対策検証委員会）（委員長）
- ・ 水害対策としての小型無人航空機（ドローン）活用に関する提言（平成28年9月30日筑波大学システム情報系公共イノベーション研究室）
- ・ 都民の安全安心に役立つ情報の発信・共有のあり方について（平成28年東京都青少年・治安対策本部・情報の発信・共有に関する検討会）

- ・ 心臓あっせん誤りの原因検証結果と国民からの信頼を回復するための再発防止策の提言（平成29年3月（公社）日本臓器移植ネットワーク、あっせん誤りに関する第三者調査チーム）

◆ 学会発表等：

- ・ 日本計画行政学会第 39 回全国大会「東日本大震災被災地への派遣職員分布とマッチングの現状」（発表者）

◆ その他：

講演等

- ・ データは誰のものか？、日本公認会計士協会 I T 委員会 XBRL 対応専門委員会、公認会計士会館、2016. 4. 8
- ・ つくば市 AED 情報データベース、データバンク紹介、筑波大学、2016. 5. 7
- ・ 公共データ活用による社会課題解決の実際と課題、宮城大学事業構想学部社会起業論、2016. 6. 4
- ・ 平成 27 年常総市鬼怒川水害からの経験と教訓について、茨城県議会大規模災害対策調査特別委員会、茨城県議会議事堂、2016. 6. 17
- ・ 日本におけるオープンデータ利活用状況、世界銀行セミナー「ビッグデータ・イノベーション：途上国の開発にどのように活用できるのか？」、世界銀行東京事務所、2016. 10. 17
- ・ 主体×情報のオープン化によるまちづくり戦略、モデレーター、ソーシャルイノベーション 2016、TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町、2016. 10. 25
- ・ Talking with Chris Taggart on Beneficial Ownership、セッションオーガナイズ、オープン・ナレッジ・ジャパン・トークシリーズ、国際大学グローバルコミュニケーションセンター、2016. 10. 28
- ・ 平成 27 年常総市鬼怒川水害からの経験と教訓について、茨城県副市長村長等自治研究会、茨城県市町村会館、2016. 11. 4
- ・ オープンデータの活用で「知らなくて損した」がなくなるまちづくりを、都市計画 2.0、NEWSPICS 朝日新聞インタビュー、2016. 11. 5
- ・ 市民×データ×ICT で公共サービスイノベーションを、常陽地域研究センターインタビュー、2017. 1. 1
- ・ データ・コラボラティブ ～データ活用は多様な対話・協働から～、総務省北陸総合通信局北陸 ICT 利活用セミナー、金沢東急ホテル、2017. 2. 24
- ・ オープンからスペクトラムへ ～ データ活用は虹色の世界 ～、国際ナショナル・オープン・データ・デイ 2017 富山イベント、TOYAMA キラリ 2017. 3. 4
- ・ データ活用による地域づくりの未来と新たなサービスの創出、総務省中国総合通信局オープンデータ利活用推進セミナー、松江テルサ、2017. 3. 17

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：システム情報系倫理委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：社会工学類カリキュラム委員、社会工学類前期入試試験監督員、社会工学類オリエンテーション委員長、社会工学類1年生担任、社会工学専攻サービス工学学位プログラム入試面接官、日越大学修士課程公共政策入試監理小委員会、社会工学類高校生向け体験実習講義

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・ 世界銀行・インドネシア政府職員訪日研修（ビッグデータ）モデレーター
 - ・ 世界銀行・クウェート政府職員訪日研修（ビッグデータ）モデレーター
 - ・ 内閣官房電子行政オープンデータ実務者会議委員
 - ・ 内閣官房データ流通環境整備検討会オープンデータワーキンググループ委員
 - ・ 総務省公共クラウドの活用・普及促進に関する検討ワーキンググループ座長
 - ・ 総務省 ICT 地域活性化大賞審査委員
 - ・ 総務省ふるさとテレワーク推進事業評価委員
 - ・ 総務省テレワーク先駆者百選・同総務大臣賞審査委員会
 - ・ 総務省地域情報化アドバイザー幹事会委員
 - ・ 総務省地域情報化アドバイザー
 - ・ 総務省地域 ICT マネージャー京都市福山市、松山市、倉敷市、京都市
 - ・ 経済産業省行政事務における人工知能活用に関する研究会委員
 - ・ 経済産業省行政分野のデジタルファースト推進研究会主査
 - ・ 経済産業省国際化に対応した地域における消費単価向上支援事業審査委員会
 - ・ 経済産業省地方版 IoT 推進ラボ審査委員会
 - ・ 国土交通省 G 空間基本計画に関する官民勉強会委員
 - ・ 国土交通省関東地方整備局マイタイムライン検討会委員
 - ・ 東京都青少年治安対策本部情報の発信・共有に関する検討会委員
 - ・ 大阪市特別参与
 - ・ 水戸市都市計画審議会会長
 - ・ つくば市情報公開・個人情報保護審査会委員
 - ・ 常総市常総市水害対策検証委員会委員長
 - ・ 鹿嶋市総合計画策定有識者会議アドバイザー
 - ・ かすみがうら市、かすみがうら市総合計画審議会座長
 - ・ かすみがうら市、まち・ひと・しごと創生有識者会議座長
 - ・ かすみがうら市基本構想策定委員会座長

- ・ 独立行政法人情報処理推進機構地方創生と IT 研究会委員
- ・ (社) 日本臓器移植ネットワークあっせん誤りに関する第三者調査チーム委員
- ・ (社) オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構利活用・普及委員会委員
- ・ オープンガバナンスチャレンジ 2016 審査員

(学会活動)

- ・ 地域デザイン学会特命担当理事

(以上)

氏 名	岸本 一男	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理工学，数理ファイナンス，数理政治		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会システム工学専攻：金融デリバティブ，ファイナンス理論と実践
 - 社会工学類：数理解析，微積分2，専門英語，非常勤世話人2件
 - 総合科目：経営の科学1
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学学位（修士）4人
 - 社会工学類5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 空間的投票理論について3件，株式市場での取引発生確率について1件の発表を行った
- ◆ 著書・論文等：
 - なし
- ◆ 学会発表等：
 - 国内学会口頭発表4件
- ◆ その他：
 - なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報系コンプライアンス委員会委員長
 - 理工学群数学共通科目ワーキンググループ
 - 教職実践
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - クラス担任（4年）

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

日本応用数学会選挙管理委員長，日本応用数学会 JSIAM Letters 編集委員

日本応用数学会数理政治研究部会幹事，日本国際賞推薦人，教員免許更新講習

高大連携授業 2 件，統計数理研究所数学協働プログラム「数理的手法と理論に基づく 計量的政治分析に関するワークショップ」運営責任者

氏 名	鬼頭 朋見	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会ネットワーク、複雑創発系、オペレーションマネジメント、生産工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 地域科学演習、都市計画マスタープラン策定実習

大学院： 地域科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【競争資金／研究プロジェクト】

- ・ 2016-2017 年度（新規、研究代表者）：科学研究費 新学術領域研究（研究領域提案型）：
4,800 千 円
研究課題：『社会ネットワークの多様性と非均質性の創発原理に関するモデル化と実証』
- ・ 2014-2016 年度（継続、研究代表者）：科学研究費 若手研究（B）（複合領域-社会・安全システム科学-社会システム工学・安全システム）：3,900 千 円
研究課題：『レジリエンスと企業の生存戦略を考慮したサプライネットワークの構造解析と設計提案』
- ・ リサーチグループ重点配分『ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究』（メンバー）
- ・ リサーチグループ重点配分『社会メカニズム工学』（サポートメンバー）
- ・ 科研新学術領域研究『新興国の政治と経済』国際活動支援班 海外渡航支援費：500 千円（2016 年度）

◆ 著書・論文等：

- ・ T.Kito, S.New, F.Reed-Tsochas: “Detangling complexity of supply relationship formations: Firms’ portfolio diversification, products’ ubiquity, and their dynamics in the Japanese car industry”, International Journal of Production Economics, 2017 (掲載決定).
- ・ T.Kito, T.Ogata: “Firms’ strategies and patterns of their interdependencies: An emergent synthesis perspective”, Procedia CIRP, 2017 (掲載決定).

- T.Kito, T.Ogata: “Firms’ strategies and patterns of their interdependencies”, Proceedings of the 10th CIRP Conference on Intelligent Computation in Manufacturing Engineering, 2016.

◆ 学会発表等：

- T.Kito, S.New, F.Reed-Tsochas: “Hierarchy, modularity and community: Empirical analysis and modeling of global industrial supply networks”, International School and Conference on Network Science (NetSci) 2017, Indianapolis, Indiana, United States, June 19th-23rd, 2017 (採択決定).
- T.Kito, S.New, F.Reed-Tsochas: “Detangling complexity of supply relationship formations; Firms’ portfolio diversification, products’ ubiquity, and their dynamics in the Japanese car industry”, 5th World Production and Operations Management Conference (P&OM), Havana, Cuba, September 6th-10th, 2016.
- T.Kito, S.New, F.Reed-Tsochas: “The building blocks and organizing principles of supply network complexity”, International School and Conference on Network Science (NetSci) 2016, Seoul, South Korea, May 30th – June 3rd, 2016.
- T.Ogata, T.Kito: “Patterns of cooperative rhythm production between people through auditory and visual signals”, The 2016 Conference on Complex Systems, Amsterdam, The Netherlands, September 19th – 22nd, 2016.
- T.Kito, S.New, F.Reed-Tsochas: “Towards modeling inter-firm networks: Empirical analysis and characterization of automobile parts supply relationship formations”, 2nd Annual International Conference on Computational Social Science, Evanston, Illinois, United States, June 24th-26th, 2016.

◆ その他：

- T.Kito: “Detangling complexity of supply network formations: Large-scale data analysis by network science approach”, Faculty of Economics and Business, University of Groningen, The Netherlands, September 23rd, 2016 (招待講演).
- 鬼頭朋見: “サプライネットワーク解析とその最新動向”, ERATO 河原林巨大グラフプロジェクト, 国立情報学研究所, 東京, July 28th, 2016 (招待講演).
- 鬼頭朋見: “複雑創発系としての社会・経済システム”, @筑波大学人文社会系 歴史・人類学専攻 June 6th, 2016 (招待講演).

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ 米軍子弟高大連携プロジェクト（講義担当）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ 社会工学専攻 広報委員
 - ・ 社会工学類 広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所： 客員研究員
 - ・ 国立大学法人東京大学人工物工学研究センター： 協力研究員
 - ・ 国立大学法人東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻： 学生指導受託
 - ・ Saïd Business School, University of Oxford: Associate Fellow
 - ・ W.P.Carey School of Business, Arizona State University: Research Associate
 - ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター専門調査員

氏 名	倉田 久	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 経営工学概論／社工専門英語／経営情報システム

大学院： サプライチェーン・マネジメント

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人／ 社会工学専攻社会工学学位プログラム（前期） 1 人／ 社会工学専攻（後期） 3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究基盤研究 (C)・26350413「製品個別化とアフターサービスの統合：顧客関係視点からの供給連鎖のモデル化分析」（代表）

◆ 著書・論文等：

『査読付き学術論文』

Kurata, Hisashi, Berdymyrat Ovezmyradov, and Yumi Meuthia (2017), “Stocking Decision and Supply Chain Coordination under the Occurrence of Backlogging, Brand Switching, and Store Switching,” *Journal of Japan Industrial Management Association*, Forthcoming.

Kurata, Hisashi and Berdymyrat Ovezmyradov (2017), “The Sales Strategy for a Base Product, Optional Items, and After-sales Services when Customers Prefer Over-Specification Products,” *Journal of Japan Industrial Management*, 67 (E4), 327-337.

『査読付き Conference Proceedings』

Kurata, Hisashi, and Yumi Meuthia (2016), “Optimal quality design when a product is customized by a customer using third-party firm's items under the uncertainty of customer's preference” Conference proceedings of Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Science (APIEMS) meeting 2016, Taipei, Taiwan on December 8-10, 2016.

Ovezmyradov, Berdymyrat, Yumi Meuthia, and Hisashi Kurata (2016), “Modeling and teaching

inventory management in multiplayer supply chain competition game using Excel and Google Sheets,” Conference proceedings of Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Science (APIEMS) meeting 2016, Taipei, Taiwan on December 8-10, 2016.

Ovezmyradov, Berdymyrat, and Hisashi Kurata (2016), “Active response of strategic consumers to stockout,” Conference proceedings of Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Science (APIEMS) meeting 2016, Taipei, Taiwan on December 8-10, 2016.

Kurata Hisashi (2016), “Analysis on competition between brand and generic consumables when heterogeneous quality perception of customers collapses over time,” Conference proceedings of Asia-Pacific Decision Sciences Institute (APDSI) meeting 2016, Beijing, China on July 25-27, 2016, pp.95-109.

◆ 学会発表等：

Kurata, Hisashi, and Yumi Meuthia, “Optimal quality design when a product is customized by a customer using third-party firm's items under the uncertainty of customer's preference,” Presented at the APIEMS2016 conference in Taipei, Taiwan on December 7-10, 2016.

Ovezmyradov, Berdymyrat, Yumi Meuthia, and Hisashi Kurata, “Modeling and teaching inventory management in multiplayer supply chain competition game using Excel and Google Sheets,” Presented at the Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Science (APIEMS) meeting 2016, Taipei, Taiwan on December 8-10, 2016.

Ovezmyradov Berdymyrat, and Hisashi Kurata, “Active response of strategic consumers to stockout,” Presented at the Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Science (APIEMS) meeting 2016, Taipei, Taiwan on December 8-10, 2016.

倉田久, 「サードパーティ品存在下での消耗品と耐久消費財の価格決定：ランニングコストの購買影響のモデル化」, 日本経営工学会 平成 28 年秋季研究大会, 会場：教育会館（東京都千代田区）2016 年 10 月 28－29 日.

Hisashi Kurata, “Analysis on competition between brand and generic consumables when heterogeneous quality perception of customers collapses over time,” Presented at the 21th Asia-Pacific Decision Sciences Institute conference (APDSI) 2016 in Guanghua School of Management, Peking University, Beijing, China, on July 20, 2016, pp.95-109.

倉田久,「純正品・サードパーティ品間の競争の考察: 製品ライフサイクル上で認知品質変化の影響」, 日本経営工学会 平成 28 年春季研究大会, 会場: 早稲田大学 (東京都新宿区)、2016 年 5 月 29-30 日.

Hisashi Kurata, "Competition between Brand and Generic Consumable Items: Application of the Razor and Razor Blade Model," Presented at the 27th POMS annual meeting in Orland, FL, USA, on May 6-9, 2016.

◆ その他:

筑波大学システム情報系 平成 28 年度 教育貢献賞 (2016 年 4 月 6 日)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

該当なし

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

社会工学類 経営工学主専攻 2 年生クラス担任

社会工学専攻 大学院カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

公益社団法人日本経営工学会「優秀学生賞」の筑波大学社会工学類経営工学主専攻の世話人, 平成 29 年 (2017 年) 1 月から 3 月.

日本経営工学会 2016 年度研究プロジェクト (サービス部門)「対人サービスへの IE 技法の適応度の諸検討」, 主査 (2016 年 4 月より 2017 年 3 月まで)

日本経営工学会 サービス研究部門 研究プロジェクト研究発表セッションの企画・運営:
日本経営工学会 2016 年度秋季大会 (会場: 教育会館), 2016 年 10 月 29 日.

高大連携、出前講義「ポストポーンメント: 顧客満足と効率化を両立させる経営戦略」、
会場: 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 (茨城県竜ヶ崎市), 2016 年 6 月 23 日

招聘講演「Introduction to Service Management」, 神戸大学経済経営学会からの招聘講演 (会場: 会場: 神戸大学六甲台第一キャンパス本館, 大学院経営学研究科), 平成 28 年 5 月 20 日.

Editorial Board member (学会誌編集委員) of “*International Journal of Revenue Management* (Inderscience Publisher, Geneva:Switzerland),” April 2009-present.

Ad-hoc reviewer (学会誌査読) of European Journal of Operational Research, International Journal of Production Economics, International Journal of Production Research, Transportation Research-Part E, Operational Research International Journal, and International Transactions in Operational Research.

講演会企画運営：講師 奥田務氏（株式会社Jフロントリテイリング相談役），題目 J・フロント リテイリングの経営改革、会場 筑波大学東京キャンパス文教校舎 116 教室、日時 平成 28 年（2016 年）11 月 22 日。

講演会企画運営：講師 山本健策氏（株式会社スーパーホテル取締役），題目 5 つ星のおもてなしを実現するスーパーホテルの仕組み経営，会場 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 1202 室，日時 平成 28 年（2016 年）9 月 29 日。

（以上）

氏 名	栗野 盛光	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マーケットデザイン、ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：社会工学実習/経済学入門I/戦略行動システム演習

大学院：ゲーム理論/行動実験経済学

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人/社会工学学位（前期） 3人/社会工学（後期） 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科学研究費 基盤研究B（一般）「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」（代表）
- 科学研究費 挑戦的萌芽「分権的マッチング制度の理論研究」（代表）
- 科学研究費 挑戦的萌芽「パレート効率な自治体連携の可能性と限界-マッチング理論による地方創生-」（分担者）
- トヨタ・社工共同研究「次世代社会システムとモビリティのあり方研究 フェーズII」、「IoT 車両情報の情報開示インセンティブと共有化に関する研究」期間 2016 年 7 月～2017 年 4 月（代表）

◆ 著書・論文等：

- O. Kesten, M. Kurino, and M. U. Unver “On Characterizations of the Probabilistic Serial Mechanism Involving Incentive and Invariance Properties,” forthcoming in *Mathematical Social Sciences*
- O. Kesten, M. Kurino, and A. Nesterov, “Efficient Lottery Design,” *Social Choice and Welfare*, 48, 31-57, 2017
- H. Anno and M. Kurino “On the Operation of Multiple Matching Markets, *Games and Economic Behavior*, 100, 166-185, 2016
- 栗野盛光、高原勇、IoT 車両情報の速度に関するモニタリング選択問題、応用地域学研究, 20, 25-35, 2016

- 香月秀仁，川本雅之，栗野盛光，谷口守，自動運転車(SDC) の利用による個人の外出行動への影響分析外出頻度・目的地の変化に着して，交通工学研究発表会論文報告集，7 pages, 2016.
- ◆ 学会発表等：
 - 学会発表

13th meeting of the Society for Social Choice and Welfare, Lund U., Sweden, 2016 年 6 月 30 日
 - ワークショップ発表（招待）

WZB matching workshop, WZB Berlin, Germany, 2016年 7月 14, 15日；Matching workshop, 横浜国立大学, 2017年2月23日
 - 招待講演

DC カンファレンス、龍谷大学、2016 年 8 月 10 日
 - 大学セミナー（招待）

京都大学経済研究所 (2016 年 6 月 16 日)；Hanoi University of Science and Technology (2017 年 3 月 17 日)
- ◆ その他：
 1. 受賞：システム情報系教育貢献賞
 2. 指導学生の受賞：中島本裕、倉谷賞、2017 年 3 月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

日越大学院準備委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類：運営委員、就職委員

院：運営委員、論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - ドイツ外務省、コンサルタント、2014 年 8 月－
 - 出前講義： 2016 年 11 月 4 日土浦第二高等学校
 - 学術雑誌の査読（カッコ内は査読した論文数）:Econometrica (1), Games and Economic Behavior (2), International Economic Review (1), Journal of Economic Behavior and Organization (1), Social Choice and Welfare (1)

氏 名	小林 佑輔	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	グラフアルゴリズム, 離散構造, 組合せ最適化, 離散数学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 微積分 I / 社会工学実習

大学院： 数理最適化理論 / ファイナンス：理論と実践（野村證券講座）

◆ 指導学生数：

社会工学類： 6 人 / 社会工学専攻（前期）1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科研費 若手研究(B)「頑健なネットワークの設計に向けた組合せ最適化理論の研究」, 研究代表者
- 新学術領域研究「数理論理学からの計算限界解析」, 研究分担者.
- JST, ERATO, 河原林巨大グラフプロジェクト, 協力研究者
- 科研費 基盤研究(A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」 研究分担者
- 科研費 基盤研究(B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」, 研究分担者
- 科研費 基盤研究(B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」, 研究分担者

◆ 著書・論文等：

- Ken-ichi Kawarabayashi and Yusuke Kobayashi: An improved approximation algorithm for the edge-disjoint paths problem with congestion two, ACM Transactions on Algorithms, 13 (2016), Article 5.
- Kristóf Bérczi, Tamás Király, and Yusuke Kobayashi: Covering intersecting bi-set families under matroid constraints, SIAM Journal on Discrete Mathematics, 30 (2016), pp. 1758--1774.
- Ken-ichi Kawarabayashi and Yusuke Kobayashi: Edge-disjoint odd cycles in 4-edge-connected graphs, Journal of Combinatorial Theory, Series B, 119 (2016), pp. 12--27.

- Takehiro Ito, Naonori Kakimura, Naoyuki Kamiyama, Yusuke Kobayashi, and Yoshio Okamoto: Efficient stabilization of cooperative matching games, Proceedings of the 15th International Conference on Autonomous Agents and Multiagent Systems (AAMAS 2016), 2016, pp. 41--49.
- ◆ 学会発表等 :
 - Kristóf Bérczi and Yusuke Kobayashi: The directed disjoint shortest paths problem, Southern Italian Workshop on Algorithms and Graphs 2016, Puglia, Italy, September 2016.
- ◆ その他 :
 - 無し

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - 無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等） :
 - 学群カリキュラム委員
 - 学群プレイスメントテスト委員
 - 大学院入試実施委員
 - SF ターム WG メンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本応用数理学会「離散システム」研究部会 幹事
- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 庶務幹事
- ◆ ISCO 2016 プログラム委員

氏 名	近藤 文代	職 名	講師
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	モバイルマーケティング、ページアンモデル、POSデータ 解析、状態空間モデル、時系列分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 担当授業科目：専門英語、経営の科学、マーケティング工学

大学院 担当授業科目：マーケティングサイエンス

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会工学専攻（前期）3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（A）「データベースマーケティングと消費者理論の融合 による CRM の新展開」（分担）

◆ 著書・論文等：

1. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2016), How do mobile information services improve quality of life? The case of Japanese students, International Journal of Innovation and Technology Management, Vol.13, No.6. [Refereed]
2. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2016), Behavioural Intention to Use Mobile Entertainment Services among Bangladeshi Students, International Journal of E-Services and Mobile Applications, Vol.8, No.2, 38-53. [Refereed]
3. 中野暁, 近藤文代, マルチデバイス同時利用環境下での消費者アクセス向上を目指した類型化と構造評価 ―シングルソースのメディア接触ログを用いた実証分析―, Direct Marketing Review, Vol.16, 18-36. [Refereed]
4. Kondo, F. N and Ghyas, Q. M. (2016), Expansion of mobile information service needs toward improving quality of life in Japan, Proceedings of 2016 5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics, pp.1120-1125. [Refereed]
5. 廣田峻, 近藤文代 (2016), 店舗・商品カテゴリの異質性を考慮した階層ベイズマルチレベル売上予測モデル, 2016 年度統計関連学会連合大会講演報告集, p. 345.

◆ 学会発表等： ※国内外学会発表などの実績

1. Kondo and Ghyas, Q. M., F. N. (2016), Expansion of mobile information service needs toward improving quality of life in Japan, 2016 5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics, on July 10-14, 2016 at Kumamoto City International Center.
2. Kondo, F. N. and Ghyas, Q. M. (2016), the Trends of Mobile Information Services to the Quality of Lives, INFORMS 2016, on June 18, 2016 at Fudan University.
3. 廣田峻, 近藤文代 (2016), 店舗・商品カテゴリの異質性を考慮した階層ベイズマルチレベル売上予測モデル, 2016 年度統計関連学会連合大会, 9 月 7 日, 金沢大学角間キャンパス.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：ウィーン経済経営大学（学術協定校）の調停教員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：学類授業評価委員長、FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動 （委員会等）

氏 名	佐野 幸恵	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：プログラミング実習／経済学入門 III（総合科目）
大学院：社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人／社会工学学位 P（前期）2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
日本語ブログ空間における長期間の大衆感情抽出、**Twitter** 上での情報拡散ネットワークの解析など
- ◆ 著書・論文等：
 1. H. Watanabe, Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu,
“Statistical properties of fluctuations of time series representing appearances of words in nationwide blog data and their applications: An example of modeling fluctuation scalings of nonstationary time series,” *Physical Review E* **94** (5), 052317 (2016). [Refereed, 26 pages]
- ◆ 学会発表等：
 1. Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu, “Read the Atmosphere: Quantifying Social Mood from the Blogosphere,” Mini-workshop on Complex Systems and Networks, Sendai, Japan, November 24-25 (2016). [Invited oral]
 2. P. Holme and Y. Sano, “Temporal Structures of Crime,” Bustiness in Human Behaviour and Other Phenomena (CCS 2016 Satellite Meeting), Amsterdam, The Netherlands, September 19-22 (2016). [Oral]
 3. P. Holme and Y. Sano, “Network Effects in Team Assembly and Crime Ideation in Criminal Co-Offender Networks,” 2nd Annual International Conference on Computational Social Science, Evanston, USA, June 24-26 (2016). [Oral]

4. 菅野倫匡, 佐野幸恵, “ネットワークとしての二字の漢字表記語,” 平成 28 年度 統計数理研究所共同研究集会「社会物理学の現代的課題」, 統計数理研究所, 3/25 (2017).

◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - 筑波大学社会工学類 春の大学説明会 講師 (2017/3/27)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - 学類・大学院 予算委員
 - 学類 広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 論文査読 (日本物理学会論文誌)
- ◆ 日本物理学会 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 委員 (2015/4-)

氏 名	澤 亮治	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：社会工学実習/ゲーム論/経済学入門Ⅰ
大学院： ゲーム理論/行動・実験経済学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0人/社会工学学位（前期） 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究 (B)「マルチタスク環境および協力ゲームにおける進化ゲーム理論の研究」(代表) 課題番号：15K17023
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
国際会議発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, GAMES 2016 (5th World Congress of the Game Theory Society), Netherlands, July 24–28, 2016
国際会議発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, Asian Meeting of the Econometric Society 2016, Kyoto, August 11–13, 2016
国内会議発表, Sawa, R., and J. Wu, “Prospect Dynamics and Loss Dominance”, 日本経済学会秋季大会, 早稲田大学, 2016年9月10–11日
招待セミナー発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, 大阪大学, 2016年12月1日
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻カリキュラム委員会委員
社会工学域コンピュータ委員会委員
社会工学類 2 年生担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
茨城県立牛久栄進高校出前講義「恋の市場を設計する：ゲーム理論による経済学」

氏 名	繁野 麻衣子	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化、ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／社会工学特設講義

大学院 応用最適化／離散数理

◆ 指導学生数：

学類 6人／社会工学学位(後期) 1人／社会工学学位(前期) 12人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」(代表)

科学研究費 基盤研究 (B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B)「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」(分担)

共同研究(経費無し) 産業総合研究所「リソース最適化に関する研究」

共同研究(寄附金) 株式会社サイゼリヤ「ファミリーレストランにおける調理工程の効率化」

◆ 著書・論文等：

Yosuke Watanabe, Kiyo Ishii, Toshiki Sato, Atsuko Takefusa, Tomohiro Kudoh, Hidemoto Nakada, Maiko Shigeno, Akiko Yoshise, Routing and Wavelength/sub-wavelength path assignment to maximizing accommodated traffic demands on optical networks, Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, 10 (2016), JAMDSM0038

Hideaki Takagi, Yukihiro Okada, Akiko Yoshise, Maiko Shigeno, Creation of Service Science Curriculum for Customer-Oriented Business Innovation, (Chapter) Global Perspectives on Service Science: Japan, Part of the series Service Science: Research and Innovations in the Service Economy, (2016) 313-336

Masahide SAHO, and Maiko SHIGENO, Cancel-and-tighten algorithm for quickest flow problems, Networks, 69 (2017) 179-188

◆ 学会発表等：

Umesha PERERA, Maiko SHIGENO, Ushio SUMITA, Yoshitsugu YAMAMOTO, " Development of statistical approach for estimating key competitive performance measures of smartphone applications The proceedings of 2016 Sixteenth International Conference on Advances in ICT for Emerging Regions (ICTer), 266- 273

宮川穂貴，渡部洋介，石井紀代，竹房あつ子，工藤知宏，繁野麻衣子，吉瀬章子，エラスティック光ネットワーク上のエニーキャスト通信に対するヒューリスティックアルゴリズム，日本オペレーションズ・リサーチ学会 2017 年春季研究発表会

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

研究科 入試実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 運営委員・カリキュラム委員・入試委員／学類 運営委員・クラス担任・卒業研究記念梗概集委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

米軍基地子弟ハイスクール高大連携

数理モデル高大連携

氏 名	Tran Lam Anh Duong	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：国際金融論/国際公共システム演習
大学院：国際経済分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0人/社会工学学位 P（前期） 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 研究活動スタート支援「貿易のネットワーク構造が技術の波及を通じて経済成長に与える影響の分析」(Tran Lam Anh Duong)
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
The 2016 Asian Meeting of the Econometric Society, Kyoto University and Doshisha University, Japan, August 2016
The 83rd International Atlantic Economic Conference, Berlin, Germany, March 2017
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学委員会 障害学生連絡窓口教員
日越大学公共政策プログラム 派遣教員「Macroeconomics for Public Policy」
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類クラス担任（2年生）
社会工学類予算委員会 委員
社会工学専攻予算委員会 委員
社会工学専攻留学生支援委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

学術誌の査読：Hitotsubashi Journal of Economics

ボランティア活動：公益財団法人ヒロセ国際奨学財団

氏 名	鈴木 勉	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	立地科学，都市空間構造，持続可能型都市形態，都市リスク分析， 地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を語るⅡ／筑波大学から診る環境問題
 社会工学類 線形代数Ⅰ／都市計画実習／都市解析
 博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／
 都市リスク分析演習／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク工学専攻 10人／社会工学専攻 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（基盤研究(A)）「地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用」（代表）
 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究） 「集約型都市構造設計への交通システムのインテグレーションに関する研究」（代表）
 日本学術振興会 韓国との共同研究(NRF) 「集約的な都市空間構造における環境負荷と生活環境の質を考慮した混合型土地利用」（代表）
 科学研究費補助金（基盤研究(A)） 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（分担）
 科学研究費補助金（基盤研究(B)） 「成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築」（分担）
 トヨタ自動車 共同研究「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」（分担）
 東京大学空間情報科学研究センター 共同研究 「集約型都市における歩行者空間量の適正水準に関する研究」.

◆ 著書・論文等：

Hideki Kato, Ryosuke Ando, Yoshinori Kondo, Tsutomu Suzuki, Keisuke Matsuhashi, Shinji Kobayashi, The eco-driving effect of electric vehicles compared to conventional gasoline vehicles, *AIMS Energy*, Vol.4, No.6, pp.804-816, 2016.

嚴先鏞・鈴木勉, 用途間の隣接性・集積性・近接性の観点から見た混合土地利用パターンの定量化ー東京都23区における地区分類と手段別分担率との関係の分析ー, 都市計画論文集, Vol.51, No.3, pp.867-874, 2016.

安達修平・鈴木勉, 国土交通網整備と所要時間短縮効果の変遷に関する研究, 都市計画論文集, Vol.51, No.3, pp.875-880, 2016.

鈴木勉・三浦英俊, 都市内の移動経路と流動量密度・交差密度の空間分布, 都市計画論文集, Vol.51, No.3, pp.909-914, 2016.

◆ 学会発表等：

長谷川大輔・鈴木勉, 中山間中心市街地における超小型モビリティによる回遊性向上評価, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.138-139, 2016.

安達修平・鈴木勉, 高速旅客交通網の変遷と国土レベルの移動効率性と公平性の推移, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.248-249, 2016.

鈴木勉・三浦英俊, 矩形都市内の移動経路と流動量密度・交差密度の空間分布, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.246-247, 2016.

安達修平・鈴木勉, 速達性と脆弱性のバランスを考慮した高速交通ネットワークの成長過程, 地理情報システム学会講演論文集, 2016.

長谷川大輔・鈴木勉, デマンド型交通と組み合わせたバス輸送導入効果分析, 地理情報システム学会講演論文集, 2016.

徐千里・長谷川大輔・鈴木勉, 郊外型大規模商業施設への公共交通アクセシビリティ評価, 2016年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2016), 2016.

野口紗英子・鈴木勉, 誘導サインによる歩行者流円滑化のマルチエージェント・シミュレーション, 都市のORワークショップ, 南山大学, 2016年12月11日.

若林建吾・鈴木勉, 交差点の規模と車流の交差処理効率, 都市のORワークショップ, 南山大学, 2016年12月11日.

安達修平・鈴木勉, 速達性と冗長性を考慮した国土交通網の評価, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.181-182, 2017.

三浦英俊・鈴木勉, 格子状交通網における移動経路と交通流動干渉量について, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.195-196, 2017.

鈴木勉・三浦英俊，円形都市内の移動経路と流動量密度・交差密度の空間分布，日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集，pp. 203-204，2017.

菊池勇大・本田功輝・木村誠一郎・長谷川大輔・鈴木勉・板岡健之，日本全国のフロー需要に基づく水素ステーション配置検討，日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集，pp. 135-136，2017.

長谷川大輔・鈴木勉，需要密度・分布に着目した出向き型・出迎え型交通システムの優劣，日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集，pp. 387-388，2017.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系総合研究棟B管理責任者
東京キャンパス文京校舎施設連絡会委員
学士オールラウンド型学士プログラム開設準備室委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻長
総務委員会委員長
研究企画委員会委員
GP アクション委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
日本オペレーションズ・リサーチ学会 IAOR 委員会委員，国際委員会委員
応用地域学会応用地域学研究編集委員
国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
茨城県県西地域公共交通確保対策協議会委員長
常総市公共交通活性化協議会会長
守谷市公共交通活性化協議会委員
神栖市地域公共交通会議委員
筑西市地域公共交通会議委員

氏 名	TURNBULL, Stephen John	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済（数理経済学、産業経済学）		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

（MSE）情報ネットワークの経済学（MPPS）社会工学のための数学（学類）専門英語、経済動学（総合科目）経済学入門 II
- ◆ 指導学生数：

（MSE）14（研究生）5（学類）2

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

ソフトウェア産業に関する科研を終了。統計学に関する科研（国際基督教大学教授 金澤雄一郎（代）、法政大学教授 明城聡と共同研究）が続投。「圏論によるゲームの分析として新研究テーマに取り組んだ。
- ◆ 学会発表等：
 1. 「Where We' ve Been, What' s Special About Now, and Where We Might Go Next」
PyCon Canada 2016, Toronto, Nov. 12-14.
 2. 「You Can Help Develop Python - and You Should!」（招待）PyCon Pune 2017, Pune, India, Feb. 16-20.
 3. 「Chasing Diagrams to Equilibrium: A Speculative Application of Category Theory to Games」 2017 Edition of Hayama Meeting, Hayama, Kanazawa, Mar. 12-14.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

留学生支援委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動

出前講座 茨城県立栄進高等学校 2016年8月4日（高大連携）

氏 名	谷口 綾子	職 名	准教授
専攻 (博士後期課程)	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼担	
専攻 (博士前期課程)	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼担	
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市交通計画, 態度行動変容研究, 都市リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】 都市計画実習, 交通運輸政策, 都市・地域・環境を語る I

【大学院前期課程】 都市安全管理特論, リスク工学特別演習, リスク工学基礎,
都市リスクコミュニケーション, リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 4名 社会工学類 3名 研究生 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 平成 26-29 年度 科学研究費(基盤 A(代表)) 健康に配慮した交通行動誘発のための学際的研究
2. 平成 24-26 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) 子育てしやすい働き方の探求と実現のための施策の立案および評価に関する研究
3. 平成 26-28 年度 受託研究 損保協会自賠責運用益拠出事業 (研究支援) 助成金 「優先配慮行動を促す道路上のコミュニケーションと交通安全」研究代表者

◆ 著書・論文等：

■査読付き原著論文

- (1) Waygood, E. O. D., Friman, M., Olsson, L., Taniguchi, A. (in press) Transport and Child Well-Being: An Integrative Review, Travel Behaviour and Society, Online publication complete: 14-APR-2017, DOI information: 10.1016/j.tbs.2017.04.005.
- (2) 中山昂彦, 宮川愛由, 谷口綾子, 井料美帆, 小嶋文, 藤井聡: 道路空間デザインが歩車間コミュニケーションに及ぼす影響に関する研究, 交通工学論文集 (特集号 A) 第 3 巻 4 号, pp. A_84-A_91, 2017.
- (3) 谷口綾子: 狩野の品質モデルによる路線バスサービスの品質要素分類と定量的評価 —「安全」はバスの魅力になり得るか—, 実践政策学, 第 2 巻 2 号, pp. 211-219, 2016.

- (4) Nakahara, S., Taniguchi, A., Sakamoto, T., (2016) Public-access automated external defibrillators and defibrillation for out-of-hospital cardiac arrest, The American Journal of Emergency Medicine (AJEM14027), YAJEM-56015.
- (5) Inada, H., Tomio, J., Nakahara, S., Xu, X., Taniguchi, A., Ichikawa, M. (2016) National 10-year trend of road injuries involving school children on way to and from school in Japan, 2003-2012, Published Online First: 30 December 2016. doi: 10.1136/injuryprev-2016-042042
- (6) 谷口綾子, 田辺太一, 井料美帆, 宮川愛由, 小嶋文: ドライバーの協調行動促進に歩行者コミュニケーションが及ぼす影響, 土木学会論文集 D3, Vol. 72 No. 5, p. I-1241 - I-1247, 2016.
- (7) 藤本宣, 谷口綾子, 谷口守, 藤井聡: モビリティ・マネジメントにおける動機付け情報の効果に関する研究, 土木学会論文集 D3, Vol. 72 No. 5, p. I-1321 - I-1330, 2016.
- (8) Waygood, E. O. D., Taniguchi, A., CRAIG-ST-LOUIS, C., Xu, X., (2016) Walking School Buses and Child Fatalities in Japan and Canada, Traffic Science Vol. 46, No. 2, pp. 30-42.
- (9) 佐藤良太, 谷口綾子: 東日本大震災における路線バス運行現場の災害応急対応, 実践政策学 (Policy and Practice Studies), Vol. 2(1) (2016 年春号), 2016.

■査読付きプロシーディングス

- (10) Seki, Y., Tu, T. M., Taniguchi, A., Sugiyama, N., Tuan, V. A., Fukuda, T. (2016) Modal Shift Challenge in Binh Duong, Vietnam, Proceeding of International Symposium on Smart Mobility for Smarter Cities (SmartCity 2016), (September 13th 2016)
- (11) Taniguchi, A., Xu, X., Waygood, E. O. D., Friman, M., Olsson, L. (2016) Effect of satisfaction with destination activity on children's satisfaction with travel, Proceeding of International Conference on Psychology, TS25-12, (July 2016).
- (12) Waygood, E. O. D., Friman, M., Olsson, L., Taniguchi, A. (2016) Children's transportation and incidental social interaction: evidence from Canada, Sweden, and Japan, Proceeding of International Conference on Transport and Health, held in San Joze, U.S.A, June 2016.
- (13) Taniguchi, A., Fujimoto, S., Sasaki, H., Nakahara, S., Ichikawa, M. (2016) Mobility Management As a Health Promotion Program Against Metabolic Syndrome in Cooperation with the Urban Transport Planning Department and the Health and Welfare Department of Local Government, Proceeding of International Conference on Transport and Health, held in San Joze, U.S.A, June 2016.

- (14) Sasaki, H., Fujimoto, S., Taniguchi, A., Nakahara, S., Ichikawa, M. (2016) Analyses of Relationships Among Traffic Behavior, Health Examination Data and Psychological Inclinations, Proceeding of International Conference on Transport and Health, held in San Joze, U.S.A, June 2016.
- (15) Nakahara, S., Taniguchi, A., Sakamoto, T. (2016) Deployment of Public-Access Automated External Defibrillators in Public Transport Nodes and Defibrillation By Lay Bystanders for out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients in Japan, Proceeding of International Conference on Transport and Health, held in San Joze, U.S.A, June 2016.
- (16) Kanda, Y., Taniguchi, A., Fujii, S., Mori, T. (2016) Can Promoting Use of Public Transportation Improve People's Health? -Analysis Focusing on Relationship Among Health, Lifestyle and Transportation Habit Cross-Regional Data-, Proceeding of International Conference on Transport and Health, held in San Joze, U.S.A, June 2016.

■著書

- (1) 土木計画ハンドブック, 第14章モビリティ・マネジメント(主査), コロナ社, 2016.
- (2) 土木計画ハンドブック, 第5章4節心理学(2)「サーベイ・リサーチを中心としたアプローチ」, コロナ社, 2016.

◆ 学会発表等：

1. 谷口綾子, 藤本宣, 藤井聡：モビリティ・マネジメントの動機付け情報におけるフレミング効果の検証 ―自動車利用者の「クルマ抑制行動意図」に着目して―, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 54, 2016.
2. 崔文竹, 森英高, 谷口綾子, 谷口守：生活・居住環境が心身状態に及ぼす影響 -BMIと健康関連 QOL 指標に基づく検討-, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 54, 2016.
3. 谷口綾子, 瀬藤乃介, 二神克也, 飯野雅貴, 岩岡宏樹, 川嶋優旗, 柴田峻平, 高木力貴也, ダシドンドグ・オノンバイル, 日高大志, 佐々木, 洋典：大学生の服装に交通手段が与える影響 ―ジャージ・スウェットの受容度に着目して―, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 54, 2016.
4. 藤村美月, 谷口綾子：電車内マナー啓発メッセージがマナー行動に対する意識・行動実態に与える影響, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 54, 2016.
5. 谷口綾子, 井料美帆, 小嶋文, 宮川愛由：無信号横断歩道の譲合行動における歩車間の感情利得の差異に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 53, 2016.
6. 井料美帆, 谷口綾子：無信号横断歩道における車両の歩行者回避挙動特性分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 53, 2016.

7. 許欣, 谷口綾子, E. Owen Waygood : 子どもの肥満度・移動時満足度に交通行動が与える影響, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.53, 2016.
8. 佐々木洋典, 藤本宣, 谷口綾子, 中原慎二, 市川政雄 : 交通行動と健康診断データ・心的傾向の関連分析—神奈川県大和市職員を対象として—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.53, 2016.
9. Junyi ZHANG, Yubing XIONG, Ying JIANG, Nobuhito TANAKA, Nobuaki OHMORI, Ayako TANIGUCHI: Migration from megacities to other areas: Analysis of behavioral changes by incorporating the interrelationships across life domains across life domains, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.53, 2016.

◆ その他：(論説)

- (1) 谷口綾子：モビリティをマネジメントする —コミュニケーションを主体とした交通施策「モビリティ・マネジメント」の概要と事例—, 土木技術, Vol.71 No.12 (2016年12月号), p.xx-xx, 2016.
- (2) 谷口綾子：質と量, 特集：復興, そして創成へ —土木の力で地域を元気に—, 土木学会誌, Vol.101 No.9 (2016年9月号), p.16-17, 2016.
- (3) 谷口綾子：クルマをかしこく使って地域愛を育む—交通すごろくで社会的ジレンマを体感—, 子や孫と楽しむ土木コンテンツ, 土木学会誌, Vol.101 No.6 (2016年6月号), p.50-51, 2016.
- (4) 谷口綾子：子連れおでかけマナー世代間ギャップの理由, 赤すぐ(リクルート), 2016年5月号, p.100, 2016.
- (5) 谷口綾子：すこやかな暮らしを支える未来のまちと交通, 特集「交通工学, これまでの50年, これからの50年」, 交通工学, 第51巻1号, pp.69-71, 2016.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

つくば3Eフォーラム 都市構造タスクフォース座長

つくばエコシティ推進グループ：キャンパス交通システムの利用促進

筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻：学年担当, 広報委員

社会工学類：カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

◆ 講演・パネルディスカッション

- (1)JICA 機構内セミナー 都市交通モビリティ・マネジメント 基調講演 2017 年 3 月
- (2)スマエコシティ研究学園 交通安全ワークショップ 講師 2017 年 3 月
- (3)子育てバリアフリーワンデーセミナー 講師 2017 年 3 月
- (4)川崎市役所・関東運輸局 エコ通勤講習会 講師 2017 年 2 月
- (5)滋賀県庁 学校 MM の基調講演 エコモ財団 2017 年 1 月
- (6)龍ヶ崎市の講演とパネルディスカッションコーディネーター 2016 年 12 月
- (7)JICA 集団研修における講師 2016 年 11 月
- (8)国土交通大学校 道路計画 講師 2016 年 11 月
- (9)エコモ財団 第 6 回 地域の交通環境対策推進者養成研修会(仙台) 講師 2016 年 10 月
- (10)土木学会全国大会 特別記念パネルディスカッション パネラー(仙台) 2016 年 9 月
- (11)コンサルタンツ協会セミナー 講師 2016 年 8 月
- (12)秦野市交通スリム化教育 教員研修会 基調講演 「学校教育における交通・環境教育(TDM 教育)の意義」 2016 年 8 月 1 日.
- (13)一般財団法人計量計画研究所 第 9 回モビリティ・マネジメント技術講習会 基調講演「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2016 年 7 月 28 日.
- (14)北海道開発局帯広開発建設部・十勝圏高速交通ネットワークシンポジウム 基調講演「高速道路と地域振興 ～インフラがもたらす効果～」 2016 年 5 月 14 日.

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017 年 4 月～
- 国土交通省 行政事業レビュー有識者委員会 委員 2017 年 4 月～
- 茨城県庁 政策評価委員会 委員 2017 年 4 月～
- 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨時委員 2016 年 11 月～
- 国土交通省北海道局 国土審議会北海道開発分科会計画推進部会 委員 2016 年 11 月～
- 国土交通省総合政策局 地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会 委員 2016 年 6 月～
- 内閣府 沖縄振興審議会専門委員会 委員 2016 年 6 月～
- 東京都大田区 大田区交通政策基本計画有識者会 委員 2016 年 5 月～
- つくば市環境都市推進委員会 委員 2016 年 4 月～
- 独立行政法人国際協力機構 (JICA) ベトナム国ビンズオン公共交通管理能力強化プロジェクト アドバイザー 2015 年 8 月～

- 藤沢市 藤沢市地域公共交通会議 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）
検討委員会 委員長 2015 年 7 月～
- 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015 年 7 月～
- 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 専門委員 2015 年 2 月～
- 国土交通省 国土審議会 北海道開発分科会計画部会 委員 2014 年 12 月～
- 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員 2014
年 9 月～
- 国土交通省 都市局 全国都市交通特性調査検討会 WG 委員 2014 年 6 月～
- 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員
2014 年 6 月～
- 国土交通省 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会 委員
- 国土交通省 運輸審議会 運輸安全マネジメント部会 専門委員 2014 年 2 月～
- 国土交通省 交通政策審議会 環境部会 臨時委員、国土交通省 2007 年 4 月～
- 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012 年 1 月～
- 茨城県 第 74 回国民体育大会茨城県準備委員会 輸送・交通専門委員会 委員 2014
年 1 月～
- 三条市・見附市 健幸都市実現を支える都市集約化のあり方研究会 2013 年 9 月～
- 静岡県 道路技術審議会 委員 2012 年 10 月～
- 龍ヶ崎市 地域公共交通活性化協議会 副委員長
- 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委
員 2009 年 1 月～
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008 年 10 月～
- 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師 2005 年～
- 交通エコロジー・モビリティ財団 EST 普及推進委員会 委員 2005 年～

以上

氏 名	谷口 守	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域計画, 交通計画, 環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画実習／都市計画原論／総合科目「都市・地域・環境を探る」／
大学院前期課程 都市と環境（都市計画の課題と方法）／

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学専攻（博士後期）6人／
社会工学専攻（博士前期）10人／

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費 基盤研究(B)「成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築」（代表）
- ・ 科学研究費 挑戦的萌芽研究「インビジブルシティ（見えない都市）の「見える化」によるハイブリッドなまちづくり」（代表）
- ・ 科学研究費 基盤研究(A)「健康に配慮した交通行動誘発のための学際的研究」（分担）
- ・ 科学研究費 基盤研究(B)「社会基盤計画の遂行におけるレジリエンス能力の解明」（分担）
- ・ 共同研究「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」（分担）
トヨタ自動車株式会社
- ・ 研究助成金「『小さな拠点に関する研究』に対する研究助成」（代表）
一般財団法人計量計画研究所

◆ 著書・論文等：

★ 著書：

谷口守：コンパクトシティ政策の経緯と課題、戸所隆編著：歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり、pp. 15-26、古今書院、2016.

谷口守：1. 国土・地域・都市計画、土木計画学ハンドブック、II. 応用編、pp. 297-321、（執筆および編集）、2017.

★ 査読付き論文：

- 星野奈月・肥後洋平・谷口守：拠点計画とチェックインスポットの空間的対応の実態調査報告、ーネットコンシヤスなまちづくりを見据えてー、都市計画論文集、No. 51-1、pp. 79-85、2016.
- 森英高・谷口守：日常生活における不安の軽減という観点からみた予約型移動サービス運行に関する一考察、交通工学論文集、Vol. 2、No. 2、特集号、pp. A_151-A_159、2016.
- He Chen and Mamoru Taniguchi: Measuring Sustainability for Rural Settlement Development: Environmental Balance Assessment Based on Ecological footprint, Journal of Urban Planning and Development, 2016.
<http://ascelibrary.org/doi/abs/10.1061/%28ASCE%29UP.1943-5444.0000337>
- 香月秀仁・川本雅之・谷口守：自動運転車の利用意向と都市属性との関係分析、一個人の意識、交通行動に着目してー、都市計画論文集、No. 51-3、pp. 728-734、2016.
- 川崎薫・香月秀仁・高原勇・谷口守：FCV 普及過程における NIMBY 問題の発生可能性、- 居住者のリスク認知の実態から -、都市計画論文集、No. 51-3、pp. 452-458、2016.
- 河内健・赤星健太郎・内田智昭・坂井猛・吉武哲信・大森洋子・辰巳浩・谷口守・出口敦：集約型の都市づくりの実現に向けた公共交通軸の設定方法に関する研究、都市計画論文集、No. 51-3、pp. 1109-1116、2016.
- 陳鶴・谷口守：環境バランスエリアの達成にライフスタイルの見直しが及ぼす可能性、環境システム研究、Vol. 44、pp. 107-118、2016.
- 森英高・西村洋紀・谷口守：中山間地域での複数モビリティサービス実施時における居住者利用意向に関する一考察、土木学会論文集 D3、Vol. 72, No. 5 (土木計画学研究・論文集、Vol. 33)、pp. I_1145-I_1154、2016.
- 陳鶴・小田佳代子・谷口守：「メテオグラム」の活用を通じた地域での長期的環境バランス変化の可視化ーその改善可能性に関する試論ー、土木学会論文集 D3、Vol. 72, No. 5 (土木計画学研究・論文集、Vol. 33)、pp. I_41-I_50、2016.
- 藤本宣・谷口綾子・谷口守・藤井聡：モビリティ・マネジメントにおける動機付け情報の効果に関する研究、土木学会論文集 D3、Vol. 72, No. 5 (土木計画学研究・論文集、Vol. 33)、pp. I_1321-I_1330、2016.
- 香月秀仁・川本雅之・栗野盛光・谷口守：自動運転車(ADV)利用がもたらす外出行動への影響、ー目的に応じた頻度・目的地の変化に着目してー、交通工学論文集 (特集号)、Vol. 3、No. 2、p. A_1-A_10、2017.
- 越川知紘・菊池雅彦・谷口守：コンパクトシティ政策に対する認識の経年変化実態、ー地方自治体の都市計画担当者を対象としてー、土木学会論文集 D3、Vol. 73、No. 1、pp. 16-23、2017.

★ 論説：

谷口守：サイバースペースへの買い物行動を考える、運輸と経済、Vol. 76、No. 6, pp. 48-53、
特集：ネット通販時代の交通・物流、2016.

谷口守：豊富なデータから「まち」の課題を読み解く、～オープンデータ時代のフリー
ソフトから～、住民行政の窓、No. 431、pp. 2～8、2016.

戸所隆・櫛引素夫・石井晴夫・谷口守：新幹線を活かした地方都市のまちづくり、日本
都市学会年報、Vol. 49、pp. 13-31、2016.

谷口守：まちを「黒字」に、一公共交通に思い切ったサポートを一、鉄道の未来学（基
調報告 47）、みんてつ、2017 春号、Vol. 61、pp. 22-25、2017.

谷口守：「小さな拠点」の利用実態と可能性、一進化的に安定な地域システム」（ESR）を
目指して一、人と国土 21、Vol. 42、No. 3、pp. 19-26、2017.

◆ 学会発表等：

★ 国際会議

Mamoru Taniguchi: Tokyo Past, Now and Future: Transportation and Development
～Aging, Structural Change, Sustainability～, The Annual Meeting of the German
Association for Social Science Research, Mobility and the City of the Future,
Duisburg, Germany, 2016.

★ 簡易査読付き口頭発表：

越川知紘・高原勇・谷口守：個人の意識・交通行動に着目した FCV の利用意向、交通工
学研究発表会論文集、No. 36、CD-Rom、pp. 399-404、2016.

香月秀仁・川本雅之・栗野盛光・谷口守：自動運転車(SDC)の利用による個人の外出行動
への影響分析、一外出頻度・目的地の変化に着目して一、交通工学研究発表会論文集、
No. 36、CD-Rom、pp. 391-398、2016.

崔文竹・森英高・谷口綾子・谷口守：食環境が心身の健康状態に及ぼす影響、第 44 回環
境システム研究論文発表会講演集、pp. 229-234、2016.

米原善秀・川本雅之・高原勇・内田史彦・谷口 守：スマートハウスにおける経年的な
電力利用実態とその要因、一豊田実証実験データの解析を通じて一、第 44 回環境シ
ステム研究論文発表会講演集、pp. 55-62、2016.

★ 口頭発表

星野奈月・見城伸・谷口守：インターネット上での情報伝達・交流が個人の地域活動参
加意思に及ぼす影響、都市計画報告集、No. 14、pp. 312-316、2016.

森英高・西村洋紀・谷口守：水害リスク情報提示が地価の変動に与える影響、一「地先
の安全度マップ」を活用して一、都市計画報告集、No. 14、pp. 276-280、2016.

- 谷口守・對馬和慶・山根優生：地域間における個人生活行動の経年的変化、－40年にわたる茨城県全域の買い物行動を分析対象として－、都市計画報告集、No. 14、pp. 270-275、2016.
- 山根優生・森尾淳・谷口守：道路ネットワークに着目した「小さな拠点」の利用実態と存立可能性、都市計画報告集 No. 15、pp. 87-92、2016.
- 谷口守・森英高：都市退化性能を巡る試論、－アポトーシス（細胞自死）からネオテニー（幼形成熟）まで－、都市計画報告集 No. 15、pp. 75-80、2016.
- 越川知紘・菊池雅彦・谷口守：コンパクトシティ政策への受容性の変化と障害意識、－自治体の都市計画担当者を対象として－、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2197-2204、2016.
- 見城紳・都築早織・平間尚夏・谷口守：サイバー空間から見た場所の魅力とその変化、－ネットコンシャスなまちづくりの視点から－、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2205-2211、2016.
- 香月秀仁・川本雅之・高原勇・谷口守：自動運転車(ADV)導入が個人の活動目的地の変化に及ぼす影響、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2143-2148、2016.
- 山根優生・森本瑛士・谷口守：多様な選定方法から見た「小さな拠点」のバリエーション－「コンパクト＋ネットワーク」のパラドクス－、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2180-2187、2016.
- 森英高・杉本峻佑・谷口守：都市退化性能に関する評価指標の検討と適用、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2188-2196、2016.
- 森本瑛士・赤星健太郎・結城勲・河内健・谷口守：市町村マスタープラン連結図に見る断片化された広域計画の実態、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2161-2168、2016.
- 陳鶴・松橋啓介・兪仕怡・谷口守：ライフスタイルの見直しを考慮した環境バランスの将来展望、－エコロジカル・フットプリントを用いて－、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2218-2225、2016.
- 崔文竹・森英高・谷口綾子・谷口守：生活・居住環境が心身状態に及ぼす影響、－BMIと健康関連 QOL 指標に基づく検討－、土木計画学研究・講演集、Vol. 54、pp. 2212-2217、2016.
- 陳鶴・谷口守：社会連携を踏まえた Society5.0 の浸透が環境バランスに及ぼす影響、－エコロジカル・フットプリント指標を用いて－、都市計画報告集、No. 15、pp. 284-288、2017.

◆ その他：

日本不動産学会論文賞受賞

米谷・佐佐木賞（創研部門）受賞

指導学生受賞（陳鶴：学長表彰／宗健：専攻長表彰／崔文竹：修士論文同窓会優秀賞／川崎薫：学群長表彰／崔文武：Outstanding Presentation Award, TGSW)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
系人事委員、系運営委員、系教員業績評価委員、研究科運営委員、研究科入試実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学域長、社会工学専攻長、社会工学学位プログラムリーダー、社会システム・マネジメント専攻長、社会システム工学専攻長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
- ◆ 学会活動（役員/委員）
 - 交通計画協会 代表理事
 - 日本都市計画学会 理事、都市構造可視化特別委員会委員長
 - 運輸政策研究 編集委員会 副委員長
 - 日本モビリティ・マネジメント会議 理事
 - 認定都市プランナー評価委員会 委員
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
 - 内閣官房 「都市再生の推進に係る有識者ボード
都市再生緊急整備を地域の評価手法検討WG」 委員
 - 国土交通省 「国土審議会 住み続けられる国土専門委員会」 専門委員
 - 国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会
都市計画部会 都市計画基本問題小委員会」 臨時委員
 - 国土交通省 「全国都市交通特性調査検討会」 委員
 - 国土交通省 「小さな拠点を核とした地域構造に関する検討会」 座長
 - 国土交通省 「河川技術評価委員会流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員
 - 国土交通省 「都市計画関連ビジネスの新たな展開に関する研究会」 委員
 - 国土交通省 「駐車場等の都市交通に関する勉強会」
 - 環境省 「中央環境審議会地球環境部会 長期低炭素ビジョン小委員会」 委員
 - 環境省 「中央環境審議会総合政策部会 環境研究・技術開発推進戦略専門委員会」
専門委員
 - 環境省 「CO2 排出削減対策技術評価委員会交通低炭素化技術開発分野分科会」
委員
 - 環境省 「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金に係る補助事業者選定のための
査委員会」 委員
 - 茨城県 「茨城県都市計画審議会」 委員

茨城県	「茨城県国土利用計画審議会」委員
茨城県	「茨城県土地利用審査会」委員
山梨県	「山梨県都市計画審議会 マスタープラン委員会」専門委員
和歌山県	「和歌山県都市計画審議会」会長
福岡県	「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」委員
龍ヶ崎市	「龍ヶ崎市最上位計画策定審議会」委員
桜川市	「桜川市都市計画マスタープラン策定委員会」委員
川越市	「川越市立地適正化計画策定懇談会」座長
新潟市	「新潟市新バスシステム事業評価委員会」委員長
静岡市	「静岡市立地適正化計画策定アドバイザリー会議」委員長
静岡市	「静岡市市街地再開発事業等採択手順見直し等に関するアドバイザー」
倉敷市	「倉敷市地域公共交通会議」委員（議長）
北九州市	「北九州市都市計画審議会」臨時委員
東京都市圏交通計画協議会	「東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会」座長
日本都市センター	「都市自治体のモビリティに関する研究会」座長
日本みち研究所	「道路空間高度化研究会」委員

氏 名	張 勇兵	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：フレッシュマン・セミナー／情報ネットワーク／情報技術実験／情報リテラシー・演習／社工専門英語
大学院：情報ネットワーク

◆ 指導学生数：

社会工学類生：2人
社会工学類科目履修生（交換留学生）：4人
社会工学専攻博士前期課程：7名
社会工学専攻研究生：3名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

◆ モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、大曽根タクシー株式会社との GPS 配車データ分析に関する共同研究

◆ 著書・論文等：

- 1) Y. Tao, Y. Zhang, and Y. Ji: Efficient Data Replica Placement for Sensor Clouds, *IET Communications*, Vol. 10, No.16, pp. 2162-2169, (November 2016).
- 2) M. Yang, K. Guo, and Y. Zhang: Cooperative Data Caching for Cloud Data Servers, *EAI Endorsed Transactions on Scalable Information Systems*, *EAI Transactions on Scalable Information Systems*, Vol. 3, No. 8, 7 pages, (August 2016).
- 3) W. Xiang, G. Wang, M. Pickering, and Y. Zhang: Big Video Data for Light-Field-Based 3D Telemedicine, *IEEE Network*, Vol. 30, No. 3, pp. 30-38 (May 2016).
- 4) S. Yang, X. Bei, Y. Zhang, and Y. Ji: Application Offloading based on R-OSGi in Mobile Cloud Computing, *Prof. IEEE Int. Conf. Mobile Cloud Computing, Services, and Engineering (MobileCloud2016)*, pp. 46-52, Oxford, UK (Mar. 29-Apr. 1, 2016).

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究科情報環境委員会委員、香港理工大学との国際交流協定責任者、筑波サイエンスウィークにおける社会工学類主催セッションの責任者

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類コンピュータ委員長、社会工学類運営委員、社会工学専攻コンピュータ委員長、社会工学専攻運営委員、文修サテライト運営委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- 1) **Associate Editor** (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
- 2) **Program Committee**, IEEE Int. Conf. Computer Communications (INFOCOM2016), San Francisco, CA, April 10-15, 2016.
- 3) **Program Committee**, IEEE Int. Wireless Commnu. & Mobile Comput. Conf. (IWCMC2016), Doha, Qatar, April 3-6, 2016.
- 4) **Referee** for IEEE Transactions on Vehicular Technology

氏 名	堤 盛人	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用空間統計学, 土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ 国土・地域・都市の政策評価 都市計画マスタープラン実習（共同）

大学院 地域科学（共同）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人 社会工学専攻 博士前期課程 5 人 博士後期課程 3 人

◆ 学生の受賞：

2017 年 3 月 CoDA-Tsukuba（山口 真理沙・Er-rbib Rim・吉田 崇紘） 学長表彰

2017 年 3 月 湯本崇 平成 28 年度茗溪会賞（大学院修了者、芸術部門）（自治体における道路維持管理業務の効率化のための支援システム構築とその活用推進活動）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『空間的自己相関を考慮した地域間フローの計量分析と空間詳細化』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究 『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 株式会社帝国データバンク 受託研究 『空間情報と大規模企業データを用いた事業所間取引構造に関する研究』

研究代表者 朝日航洋株式会社 奨学寄付金 『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 三幸エステート株式会社 奨学寄付金 『オフィス賃貸マーケットに関する研究』

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究』（代表：大澤義明）

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開』（代表：石田東生）

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C) 『ビッグデータを用いた不動産市場の社会的動学の特性に関する研究』（代表：川口有一郎）

研究分担者 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 委託研究費 『戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究』(代表：前川宏一)

◆ 著書・論文等：

i) 著書

- 1) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Dealing with Intraregional Flows in Spatial Econometric Gravity Models, in: Roberto Patuelli and Giuseppe Arbia Eds., Spatial Econometric Interaction Modelling, Chapter 6, pp.105-120, Springer, 2016.
- 2) ジュセッペ・アルビア (著)・堤 盛人 (監訳) 「R で学ぶ空間計量経済学入門 ー」, 勁草書房, 2016.
- 3) 土木学会 土木計画学ハンドブック編集委員会 編 『土木計画学ハンドブック』, I. 基礎編 3. 基礎数学 3.2 統計, p.101-122, 編集担当主査・分担執筆, コロナ社, 2017.

ii) 審査つき論文

- 1) Hajime Seya, Takahiro Yoshida, and Morito Tsutsumi: Ex-post identification of geographical extent of benefited area by a transportation project: Functional data analysis method, Journal of Transport Geography, Vol.55, pp. 1-10, 2016.
- 2) Hiromichi Yamamoto, Jumpei Sano, Kiyoshi Yamasaki, Kazuki Yanagisawa, Atsushi Koike, Morito Tsutsumi: Socioeconomic evaluation of Transit Oriented Development using by Detailed Spatial Scale CUE Model in Taiwan, Asian Transport Studeis, Volume 4, Issue 3, pp. 565-584, 2017.

◆ 学会発表等：

- 1) 高野佳佑・堤盛人・菊川康彬：「固有ベクトル空間フィルタリングを用いて空間従属性を考慮した日本の産業立地要因分析」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol. 53, (CD-ROM 講演番号：13-01), 5月28日～29日, 北海道大学, 2016
- 2) 友成将・村上大輔・堤盛人：「地価公示における標準地数削減に関する空間統計学的考察」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol. 53, (CD-ROM 講演番号：13-03), 5月28日～29日, 北海道大学, 2016.
- 3) 吉田崇紘・堤盛人「組成型モデルに関する空間統計学的考察」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol. 53, (CD-ROM 講演番号：13-05), 5月28日～29日, 北海道大学, 2016.
- 4) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: Model Specification and Estimation for Count Data in Spatial Econometrics, presented at the Nineth World Conference of the Spatial Econometrics Association, Roma, Italy, 13-15 of June, 2016.

- 5) Yasuhisa Kikukawa, Morito Tsutsumi, and Keisuke Takano: Application of inter-firm transaction micro data to measuring industrial agglomeration, 56th European Regional Science Association Congress, Vienna, Austria, 23-26 August 2016.
- 6) Yasuhisa Kikukawa, Keisuke Takano, and Morito Tsutsumi: Evaluating industrial agglomeration via inter-firm micro transaction data, 6th Asia Regional Science Seminar, Sendai, Japan, 24-25 of September, 2016.
- 7) Keisuke Takano, Morito Tsutsumi, and Yasuhisa Kikukawa: Spatial Dependence in Industrial Location in Japan:
An Application of Spatial Econometric Model, 6th Asia Regional Science Seminar, Sendai, Japan, 24-25 of September, 2016.
- 8) 吉田崇紘・堤 盛人:「Aitchison 距離を用いた将来の日本と現在の市区町村との類似度比較」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 25, D-2-5, (CD-ROM), 立正大学 (品川キャンパス), 10 月 10 日~11 日, 2016.
- 9) 鈴木 美緒・福田大輔・塚井誠人・堤盛人:「2016 年 5 月 27 日大韓航空機事故に伴う羽田空港滑走路閉鎖が航空利用者にも与えた影響: 土木計画学研究発表会関係者へのアンケート結果から」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 54, pp. 2434-2441, (CD-ROM 講演番号: P49), 11 月 4 日~6 日, 長崎大学, 2016.
- 10) 高野佳佑・堤盛人:「工場移転に関するフローデータを用いた都道府県間産業移転の空間分析」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 54, pp. 883-889, (CD-ROM 講演番号: 121), 11 月 4 日~6 日, 長崎大学, 2016.
- 11) 黒田翔・堤盛人:「賃貸住宅市場における市場の厚み効果の実証分析」, 第 30 回応用地域学会, 神戸大学六甲台 2 キャンパス, 11 月 26 日~27 日, 2016.
- 12) 松下滉一郎・堤盛人・今関豊和:「誤差修正モデルを用いた東京の賃貸オフィス市場における時空間波及の検証」日本不動産金融工学学会, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋), 2 月 25 日, 2017,

◆ 受賞:

2016 年 10 月 地理情報システム学会 ポスターセッション賞 (吉田崇紘・堤盛人:「Aitchison 距離を用いた将来の日本と現在の市区町村との類似度比較」)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学： 中長期的な修繕計画等「インフラ長寿命化計画（行動計画）」検討 WG 委員
システム情報系：戦略室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム工学専攻：
 - 1) カリキュラム委員会委員長
 - 2) 論文委員会委員社会工学類：社工 SFT 対応 WG 議長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員，論文査読等）
 - 1) 一般社団法人 日本写真測量学会 評議員
 - 2) 日本不動産金融工学学会 評議員
 - 3) 応用地域学会 論文編集委員
 - 4) 応用地域学会 2015 年度 論文賞選考委員会 委員長
 - 5) 査読委員/査読者：The Annals of Regional Science, 応用地域学研究, 土木計画学研究・論文集 Vol.33, GIS 理論と応用
- ◆ 社会的活動
 - 1) 総務省 『政策評価審議会』 専門委員
 - 2) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員
 - 3) 国土地理院 『平成 28 年度測量士・測量士補試験考査委員会』 委員
 - 4) 国土交通省 『地域道路経済戦略検討会』 委員
 - 5) 国土交通省 『道路に係る事業評価検討会』 委員長
 - 6) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員
 - 7) 公益社団法人日本測量協会 『地理空間情報専門技術委員会』 委員
- ◆ その他兼業
株式会社タス 非常勤顧問

氏 名	Phung-Duc Tuan	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率過程，計算機・通信・サービスシステムのモデル化と性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学英語（春）
 - 応用確率過程（秋）
 - プログラミング実習（秋）
 - 計算機科学（分担，秋）
 - 社会工学のための数学（分担，春）
- ◆ 指導学生数：
 - 2016 年 4 月に着任したため，該当年度に指導学生がいませんでした。

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科研費「顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析」，日本学術振興会/科学研究補助金 若手研究(B) 代表
- ◆ 著書・論文等：
 - <編集学術誌特集号>
 - Gomez-Corral, A. and Phung-Duc, T., Eds., Special Issue on Retrial Queues and Related Models, Annals of Operations Research, Vol. 247, No. 1, 2016. [DOI: 10.1007/s10479-016-2305-2]
 - <編集した国際会議の会議録（書籍として出版）>
 - Wittevrongel, S. and Phung-Duc, T., Eds., Proceedings of 23rd International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications Cardiff, Wales, UK, 24-26 August 2016, Lecture Notes in Computer Sciences, LNCS 9845, 2016. [DOI: 10.1007/978-3-319-43904-4]

<編集国際会議の会議録>

Phung-Duc, T. and Dimitriou, I., Eds., Proceedings of Symposium on Stochastic Models: Methods and Applications (SAMMA 2016 within the ICNAAM 2016, Rhodes, Greece, 19-25 September 2016.), to appear in AIP Conference Proceedings.

<査読付き学術論文誌に掲載論文>

Phung-Duc, T., Rogiest, W., Takahashi, Y., and Bruneel, H., “Retrial Queues with Balanced Call Blending: Analysis of Single-Server and Multiserver Model,” Annals of Operations Research, Vol. 239, No. 2, pp. 429--449, 2016. [DOI: 10.1007/s10479-014-1598-2]

Sakurai, H. and Phung-Duc, T., “Scaling Limits for Single Server Retrial Queues with Two-Way Communication,” Annals of Operations Research, Vol. 247, No. 1, pp. 229--256, 2016. [DOI: 10.1007/s10479-015-1874-9]

Phung-Duc, T., “Exact Solutions for M/M/c/Setup Queues,” Telecommunication Systems, Vol. 64, No. 2, pp. 309--324, 2017. [DOI: 10.1007/s11235-016-0177-z]

Phung-Duc, T., “Single Server Retrial Queues with Setup Time.” Published Online First in Journal of Industrial and Management Optimization, 17 pages, 2016. [DOI: 10.3934/jimo.2016075]

Phung-Duc, T., Rogiest, W. and Wittevrongel, S., “Single Server Retrial Queues with Speed Scaling: Analysis and Performance Evaluation,” Published Online First in Journal of Industrial and Management Optimization, 17 pages, 2017. [DOI: 10.3934/jimo.2017025]

Morozov, E. and Phung-Duc, T., “Stability Analysis of a Multiclass Retrial System with Classical Retrial Policy,” Published Online First in Performance Evaluation, 2017. [DOI: 10.1016/j.peva.2017.03.003]

<査読付き国際会議論文>

Pender, J. and Phung-Duc, T., “A Law of Large Numbers for M/M/c/Delayoff-Setup Queues with Nonstationary Arrivals,” Proceedings of 23rd International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications (ASMTA 2016), Cardiff, UK, 24-26 August, 2016, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 9845, pp. 253-268, 2016. [DOI: 10.1007/978-3-319-43904-4_18]

Phung-Duc, T. and Kawanishi, K., “Energy-Aware Data Centers with s-Staggered Setup and Abandonment,” Proceedings of 23rd International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications (ASMTA 2016), Cardiff, UK, 24-26 August, 2016, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 9845, pp. 269-283, 2016. [DOI: 10.1007/978-3-319-43904-4_19]

Ren, Y., Phung-Duc, T., Yu, Z.-W. and Chen, J.-C., “Dynamic Auto Scaling Algorithm (DASA) for 5G Mobile Networks,” Proceedings of IEEE Globecom 2016: Communication QoS, Reliability & Modeling Symposium, Wasington, DC USA, 4-8 December 2016. [DOI: 10.1109/GLOCOM.2016.7841759]

Phung-Duc, T. and Dragieva, V., “Stability Condition for a Multiserver Retrial Queue with Interaction between Servers and Orbit,” Proceedings of 14th International Conference of Numerical Analysis and Applied Mathematics (Stochastic Models: Methods and Applications), AIP Conference Proceedings, Rodos Palace Hotel, Rhodes, Greece, 19-25 September 2016.

Phung-Duc, T., Ren, Y., Chen, J.-C. and Yu, Z.-W., “Design and Analysis of Deadline and Budget Constrained Autoscaling (DBCA) Algorithm for 5G Mobile Networks,” Proceedings of 8th IEEE International Conference on Cloud Computing Technology and Science (IEEE Cloudcom 2016), pp. 94-101, Luxembourg, 12-15 December, 2016. [DOI: 10.1109/CloudCom.2016.0030]

Yajima, M., Phung-Duc, T. and Masuyama, H., “The Stability Condition of BMAP/M/ ∞ Queues,” Proceedings of The 11th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2016) (ACM Digital Library), 6 pages, Wellington, New Zealand, December 13--15, 2016. Candidate for Best Paper Awards. [DOI: 10.1145/3016032.3016046]

Phung-Duc, T. and Kawanishi, K., “Impacts of Retrials on Power-Saving Policy in Data Centers,” Proceedings of The 11th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2016) (ACM Digital Library), 4 pages, Wellington, New Zealand, December 13--15, 2016. [DOI: 10.1145/3016032.3016047]

Dragieva, V. and Phung-Duc, T., “Two-Way Communication M/M/1 Retrial Queue with Server-Orbit Interaction,” Proceedings of The 11th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2016) (ACM Digital Library), 7 pages, Wellington, New Zealand, December 13--15, 2016. [DOI: 10.1145/3016032.3016049]

Fiems, D. and Phung-Duc, T., “Light-Traffic Analysis of Queues with Limited Heterogenous Retrials,” Proceedings of The 11th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2016) (ACM Digital Library), 4 pages, Wellington, New Zealand, December 13--15, 2016. [DOI: 10.1145/3016032.3016056]

◆ 学会発表等 :

Yajima, M. and Phung-Duc, T., “Batch Arrival Single Server Queue with Variable Service Speed and Setup Time,” Second European Conference on Queueing Theory (ECQT 2016), Toulouse, France, 18--20 July, 2016.

Morozov, E. and Phung-Duc, T., “Stability Analysis of a Multiclass, Multiorbit System with Classical Retrials,” Second European Conference on Queueing Theory (ECQT 2016), Toulouse, France, 18--20 July, 2016.

Pender, J. and Phung-Duc, T., “M/M/c Delay-Off Setup Queues with Nonstationary Arrivals: A Fluid Model Approach,” Second European Conference on Queueing Theory (ECQT 2016), Toulouse, France, 18--20 July, 2016.

Walraevens, J. and Phung-Duc, T., “Asymptotics in Priority Retrial Queues,” Second European Conference on Queueing Theory (ECQT 2016), Toulouse, France, 18--20 July, 2016.

Phung-Duc, T., “Exact Solution for Service System with Fixed and Flexible Servers,” Second European Conference on Queueing Theory (ECQT 2016), Toulouse, France, 18--20 July, 2016.

Phung-Duc, T. and Kawanishi, K., “Multiserver Retrial Queue with Setup Time,” 11th International Workshop on Retrial Queues and Related Topics (WRQ11), Amsterdam, The Netherlands, August 31 -- September 2, 2016.

矢島萌子, フンドックトゥアン, 増山博之, BMAP/PH/ ∞ 待ち行列の安定条件, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年度秋季研究発表会, アブストラクト集, pp. 252--253, 山形県山形市, 2016 年 09 月 15-16 日.

牛垣龍一, フンドックトゥアン, 待ち行列理論を用いた駐車スペース共有の評価, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年度秋季研究発表会, アブストラクト集, pp. 258--259, 山形県山形市, 2016 年 09 月 15-16 日.

矢島萌子, フンドックトゥアン, Binomial catastrophe の発生を伴うマルコフ変調 $M_x/M/\infty$ 待ち行列に対する中心極限定理, 第 33 回 (2016 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 予稿集, pp. 19-28, 東京理科大学 森戸記念館 (東京都新宿区), 2017 年 01 月, 19-21 日.

矢島萌子, フンドックトゥアン, Binomial catastrophe の発生を伴うマルコフ変調 $M_x/M/\infty$ 待ち行列に対する中心極限定理, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2017 年度春季研究発表会, ブストラクト集, pp. 57-58, 沖縄県市町村自治会館, 2017 年 03 月 15-17 日.

◆ その他：解説論文等

牛垣龍一, フンドックトゥアン, 三好直人, 待ち行列理論を用いた駐車場共同利用の評価, オペレーションズ・リサーチ pp. 690--691, 2016 年 10 月.

A. Gomez-Corral and T. Phung-Duc, Retrial Queues and Related Models, Annals of Operations Research, Vol. 247, No. 1, pp. 1-2.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
広報委員会メンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

学術論文誌の編集員

Editor of KSII Transactions on Internet and Information Systems (Korean Society for Internet Information) from January 2013 ~ present

Editor of Journal of Platform Technology (ICT Platform Society) from November 2013 ~ present

Editorial Board of International Journal of Applied & Experimental Mathematics (IJAEM) from December 2015 ~ present

Guest Editor of Special Issue of Annals of Operations Research on Queueing Theory and Network Applications, from October 2016 ~ present

国際会議の委員等

Advisory Board of the 11th International Workshop on Retrial Queues and Related Topics (11th WRQ). Amsterdam, August 31 -- September 2, 2016. [Website]

Technical Programme Committee Member of The Twelfth International Conference on Networking and Services (ICNS 2016), Lisbon, Portugal, June 26 – 30, 2016. [Website]

Co-Chair of Technical Programme Committee of the 23rd International Conference on Analytical and Stochastic Modelling Techniques and Applications (ASMTA'16). Cardiff, Wales, UK, 24–26 August, 2016. [Website]

Co-Organizer of the Symposium on Stochastic Models: Methods and Applications (SAMMA), 14th International Conference of Numerical Analysis and Applied Mathematics, 19–25 September 2016, Rodos Palace Hotel, Rhodes, Greece. [Website]

Technical Programme Committee Member of The Fifth International Symposium on Integrated Uncertainty in Knowledge Modelling and Decision Making (IUKM 2016), Danang, Vietnam, 30 November – 2 December, 2016.

Technical Programme Committee Member of The 12th IEEE-RIVF International Conference on Computing and Communication Technologies, Hanoi, Vietnam, 07--09 November, 2016.

Technical Programme Committee Member of The 11th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2016), Wellington, New Zealand, December 13-15, 2016.

Publications Co-Chair of The 11th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2016), Wellington, New Zealand, December 13-15, 2016.

国内学会・研究集会の委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会 庶務幹事

第 33 回（2016 年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

社会貢献

岩城高校：出前講義

氏 名	中村 豊	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定論、理論経済学、数理心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：微積分Ⅰ、意思決定論
大学院：意思決定理論
- ◆ 指導学生数：
学類 4 人 /社会工学専攻（前期）2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
- ◆ 著書・論文等：
Nakamura, Y. (2016) Binary regret for statistically dependent risks, Available at SSRN: <http://ssrn.com/abstract=2800483>
Nakamura, Y. (2016) Higher-order attitudes toward risk: behavioral characteriations of differentiability, Availabe at SSRN: SSRN: <https://ssrn.com/abstract=2807245>
学会発表等：
日本経済学会秋季大会（早稲田大学）討論者
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類入試実施委員、人事世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動

氏 名	八 森 正 泰	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学特設講義（LaTeX 入門）／囲碁で
 培う思考力

大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 3 人／社会工学専攻（前期課程） 4 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人
 ／研究生 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C)「部分構造への等質性を基軸とする単体的複体の構造解析」
 (代表)

基盤研究(B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」
 (分担、代表：繁野麻衣子)

基盤研究(B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎
 理論の整備と深化」(分担、代表：吉瀬章子)
- ◆ 著書・論文等：

Masahiro Hachimori, Hereditary properties and obstructions of simplicial complexes,
 RIMS 講究録 Vol. 1986 (2016), 71-85. (査読なし)
- ◆ 学会発表等：

2017 年 軽井沢グラフと解析研究集会, 日本大学軽井沢研修所, 2017 年 2 月 8-10 日, 「単
 体的複体、shelling と分割」

2017 Symposium on Mathematical Programming and Game Theory, Indian Statistical
 Institute, Delhi Centre (Delhi, India), 2017 年 1 月 9-11 日, “Optimization on acyclic
 orientations of graphs, shellability of simplicial complexes, and related topics”
 (invited)

日本応用数理学会 2016 年度年会, 北九州国際会議場 (福岡県北九州小倉), 2016 年 9 月
 12-14 日, 「単体的複体の分割可能性と h-triangle」

Japanese Conference on Combinatorics and its Applications 2016 (JCCA2016), 京都大学, 2016 年 5 月 21-25 日, “Hereditary properties of simplicial complexes and h-triangles”

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科 学務・カリキュラム委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 外国語センター学類代表
大学院 論文委員長，障害学生支援室連絡窓口教員（社会工学専攻）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
Graphs and Combinatorics 誌 Managing Editor
応用数学合同研究集会（日本数学会応用数学分科会主催，応用数理学会，龍谷大学理工学部協賛）世話人
組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事
国際会議 Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA2016) 実施委員
JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏 名	原田 信行	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 統計Ⅰ／金融論
 - 大学院 企業評価論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 4名
 - 社会工学学位（前期） 1名
 - 社会システム・マネジメント専攻 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金 基盤研究（C）「中小企業の雇用・技術と日本経済の再生」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
 - 宮川努・枝村一磨・尾崎雅彦・金榮慤・滝澤美帆・外木好美・原田信行「生産性向上と無形資産投資の役割」、宮川努・浅羽茂・細野薫編『インタangibleブルズ・エコノミー』第1章、pp. 17-76、東京大学出版会、2016年9月
 - 岡崎哲二・大久保敏弘・齊藤有希子・中島賢太郎・原田信行「コンパクトな産業集積へ」、NIRA 研究報告書『コンパクトな産業集積へ』総論、pp. 3-13、2016年11月
 - 原田信行「地域別の潜在的起業規模」、NIRA 研究報告書『コンパクトな産業集積へ』第3章、pp. 53-66、2016年11月
- ◆ その他：
 - 筑波大学システム情報系 教育貢献賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学 資金運用委員会委員
理工学群 総合政策室員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 運営委員会委員
社会工学専攻 カリキュラム委員会委員
社会工学類 運営委員会委員
社会工学類 カリキュラム委員会委員

4. 学外の社会貢献

氏 名	藤井 さやか	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学類 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、まちづくり法制、住環境整備、団地再生、コミュニティ形成		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 総合科目都市・地域・環境を探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／土地利用・地区整備計画／現代まちづくりの理論と実践／住環境計画実習／都市計画事例講義及び実習／設計演習Ⅰ・Ⅱ

大学院： プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ（国際交流ワークショップA・B／常総市まちづくりワークショップファシリテーター研修）

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人 ／ 社会工学専攻 4人 ／ 研究生2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 平成 26-28 年度科学研究費・基盤研究（C）・「北米における公的住宅団地の再々開発の実態分析と日本への示唆」（代表）
- 平成 27 年度公益財団法人三井住友海上福祉財団高齢者福祉部門研究助成「高齢化する市街化調整区域内住宅団地の土地利用規制制約の実態と柔軟化に関する研究」（代表）
- 平成 27-28 年度公益財団法人鹿島学術振興財団「高経年団地の資源を活用した「居場所」づくりの実践研究」（分担）（代表・東京大学樋野公宏）
- 2016 年度トヨタ自動車共同研究「高齢化・人口減少が進行する地方小都市における空家活用と移動支援を連携した地域拠点形成」（代表）
- グリーンエコ合同会社共同研究「八千代町の地域経済活性化に向けた施策の検討・提案」（代表）
- 2016 年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」（代表）

◆ 著書・論文等：

- 温井達也、王尾和寿、渡和由、藤井さやか、花里俊廣: 地域情報による区会分類とその運営目的および事業内容の比較: 地域特性と区会規約の関連性に関する考察（その

- 1) , 日本建築学会技術報告集, 23(53), pp.277-281, 2017-02. (査読有)
- Sayaka FUJII: The Role of the Community Learning and Development Center in the Diverse Community, Proceedings of the 11th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.2118-2121. 2016-09. (査読有)
- 藤井さやか: 地域の中にある多様性に気づき、活かす, Joyo ARC, 48(561), pp.4-11, 2016-07. (査読なし)
- ◆ 学会発表等 :
 - Sayaka FUJII: The Role of the Community Learning and Development Center in the Diverse Community, The 11th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 2016-09-22.
- ◆ その他 :
 - ISAIA 2016 Academic Session Award (2016.9.23) Sayaka FUJII: The Role of the Community Learning and Development Center in the Diverse Community, 11th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - 2016 年度 TGSW 実施委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - 専攻運営委員会委員／専攻長意向調査管理委員会委員長
 - 社会工学類運営委員会委員／SF ターム検討 WG 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動 :
 - 日本都市計画学会 都市計画法 50 年・100 年企画特別委員会委員
 - 日本建築学会論文集委員会委員／創造的地域文脈小委員会筑波研究学園都市 WG 委員
 - 日本不動産学会事業企画委員会委員
- ◆ 学術指導・講師等 :
 - 平成 28 年度筑波大学社会貢献 (地域貢献) プロジェクト「常総市復興計画推進に向けた大学院講義と連動したまちづくりワークショップ」研究代表者
 - 講師. 「歩いて楽しいつくばセンター地区のにぎわいづくり」平成 28 年度まちづくり体験講座. 2017 年 2 月 26 日. つくば市吾妻交流センター.
 - コーディネーター. 「都市計画家が語る光と影 : 大村謙二郎先生」日本都市計画学会・都市計画法 50 年・100 年記念企画連続サロン. 2016 年 11 月 25 日. 日本都市計画学会会議室.

- 講師、「空家・老朽建築物の利活用：老朽建築物の増加を抑えるために」板橋区老朽建築物等対策協議会、2017年1月24日、板橋区役所。
- 講師、「八千代町に住み続けたいをつくる。増やす。」2016年11月21日、八千代町商工会館会議室。
- コーディネーター、「都市計画家が語る光と影：川手昭二先生」日本都市計画学会・都市計画法50年・100年記念企画連続サロン、2016年11月17日、横浜市歴史博物館。
- 講師、「東京の都市開発の現状」デンマーク建築家集団視察団へのレクチャー、2016年10月6日、デンマーク大使館。
- コーディネーター、「竹園三丁目地域拠点再構築ワークショップ」つくば市まちなみ整備課、2016年10月1日及び2日、つくば市竹園交流センター。
- 講師、「東京の都市計画の今日的課題」コペンハーゲン市視察団へのレクチャー、2016年5月10日、デンマーク大使館。
- 平成28年度つくば市「センター地区通行量及びにぎわいの調査に関する学術指導」（指導責任者）
- 平成28年度守谷市「みずき野地区の将来を見据えた長期ビジョン作成のための住民アンケートの実施に関する学術指導」（指導者）（指導責任者雨宮護）

◆ 高大連携活動

- 出前講義 茗溪学園 SSH 講演会「都市を計画するということ」2016年12月21日 茗溪学園。
- 出前講義 2016年度高大連携ワークショップ「常総を元気にする拠点づくり：多様な人が支え合う拠点づくり」2016年8月9日 常総市役所。

◆ 学外委員：

- 国関係：内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員／文部科学省科学技術・学術制作研究所科学技術動向研究センター専門調査員
- 県政関係：長野県都市計画ビジョン等検討委員会委員／埼玉県大規模小売店舗審議会委員／千葉県柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議委員／茨城県県南生涯学習センター大学等地域連携委員会委員
- 都市計画審議会：長野県／墨田区／板橋区／市川市
- 都市計画関係：墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可にかかる専門部会専門委員／板橋区都市計画マスタープラン改訂部会委員／板橋区緑の基本計画策定委員会・WG委員／板橋区老朽建築物等対策協議会委員
- 景観関連：石岡市景観調査委員会委員／守谷市景観審議会委員
- 建築審査会：墨田区／土浦市

氏 名	藤川 昌樹	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻、生命環境科学研究科持続環境学専攻		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、生命環境科学研究科環境科学専攻		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画の歴史／現代まちづくりの理論と実践／都市・地域・環境
る／住環境計画実習／設計演習 II

大学院 都市形成史（環境計画史）

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／社会システム工学専攻 1人／社会工学専攻博士前期 11人／社会工学専攻博士後期 2人／社会工学専攻研究生 6人／特別研究学生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費・戦略的萌芽研究「在来産業の近代化と都市形成の対応に関する日中比較研究」（代表）
- ・ 筑波大学多目的データ・バンク形成プロジェクト「江戸武家地データベースの作成2：文献史料のテキストデータ化を中心に」（代表）
- ・ 石岡市「石岡市看板建築及び里山景観等調査研究」（代表）
- ・ 筑波大学・トヨタ自動車共同研究「重要伝統的建造物群保存地区のモビリティ・マネジメント研究2」（代表、「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」の一部）
- ・ 科学研究費 基盤研究(A)「被災・破損を起因とする建設の技術革新と建築様式に関する歴史的研究」（分担）
- ・ 科学研究費 基盤研究(C)「近代和風建築の形成：橋本市中心市街地における建築調査を通して」（分担）

◆ 著書・論文等：

- ・ 藤川昌樹「歴史の中の暫定利用：日本の伝統的都市の事例から」（『都市計画』321、pp. 20-23、2016年7月）

- Yichen Liu and Masaki Fujikawa “Chinese Participation in the Development of British Concession in Tianjin, China”
(11st The International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, B-19-5, Tohoku University, Sep. 2016)
- 李雪・黒田乃生・藤川昌樹・安藤邦廣「ミャオ族の穿闘式木造民家の加工と仕口 - 中国貴州省における少数民族の穿闘式木造民家の構法に関する研究-」（『日本建築学会計画系論文集』732、pp. 383～391、2017 年 2 月）
- 曾天然・藤川昌樹「中国四川省宜賓市における白酒醸造業の近代化と都市形成の関係」（『日本建築学会計画系論文集』732、pp. 411～421、2017 年 2 月）
- 藤川昌樹「総論」（『茨城県の近代和風建築』pp. 8～15、茨城県教育委員会、2017年3月）

◆ 学会発表等：

- 余思奇・藤川昌樹「清代『五臺山聖境全圖』に描かれた五台、台湾及び周辺地区の状況」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 177-178、2016 年 8 月
- 秋葉正美・藤川昌樹・中野茂夫「明治 35 年の真壁町の住居における屋根葺材と平面の関係 ～「家屋台帳」による検討～」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 835-836、2016 年 8 月
- 平井恵理・藤川昌樹「石岡市の町並み景観の特徴と看板建築：石岡市における看板建築に関する基礎的研究 その 1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 325-326、2016 年 8 月
- 今井文子・藤川昌樹「石岡市の看板建築における店舗空間の拡大とその影響：石岡市における看板建築に関する基礎的研究 その 2」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 327-328、2016 年 8 月
- 山縣杏香・藤川昌樹「近世笠間城下町における武家地・町人地の空間変容」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 411-412、2016 年 8 月
- 梁博・藤川昌樹「中国蘭州市における文革前後のモスク建築変化」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 423-424、2016 年 8 月
- 劉一辰・藤川昌樹「海河の水流状態が中国天津の旧租界地区の景観形成に与えた影響」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 161-162、2016 年 8 月

◆ 講演ほか：

- ・ 「江戸武家地データベースの作成 1：文献史料のテキストデータ化を中心に」
(藤川昌樹、データバンク紹介、筑波大学、2016 年 5 月 7 日)
- ・ 「文化財建造物保存の近年の展開：茨城県での調査事例から」
(藤川昌樹、茨城県文化財保護協会研修会、笠間稲荷神社稲光閣、2016年5月30日)
- ・ 「隠棲都市：大名京都屋敷の一側面」
(藤川昌樹、第 32 回平安京・京都研究集会「近世京都の大名屋敷」、京都機関紙会館、2016 年 7 月 31 日)
- ・ 「過去から未来を見る：まちづくりにとって歴史とは何か？」
(藤川昌樹、常総市・筑波大学高大連携プロジェクト 2016、筑波大学 2016 年 8 月 8 日)
- ・ “Chinese Participation in the Development of British Concession in Tianjin, China”
(Yichen Liu and Masaki Fujikawa, 11st The International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, Tohoku University、2016年9月22日)
- ・ 「筑波大学社会工学専攻関連のスペース・チャージ制について」
(藤川昌樹、SD 研修会、工学院大学、2016 年 11 月 28 日)
- ・ 「石岡市看板建築等調査報告 - 市街地班 - 」
(藤川昌樹ほか大学院生 9 名、石岡市消防局・旧近清書店、石岡市景観調査委員会、2017 年 2 月 7 日・26 日)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ 特になし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ 社会工学専攻／社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - ・ 建築史学会編集委員
 - ・ 日本建築学会・都市計画学会論文査読
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - ・ 芸術文化振興基金運営委員会文化財専門委員会委員
 - ・ 茨城県景観審議会委員
 - ・ 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
 - ・ つくば市景観審議会委員

- ・ つくば市文化財保護審議会会長
- ・ 桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・ 桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・ 史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
- ・ 土浦市文化財保護審議会委員
- ・ 土浦市都市計画審議会会長
- ・ 笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
- ・ 石岡市景観調査委員会委員
- ・ スーパープロフェッショナルハイスクール運営指導委員（栃木県立宇都宮工業高等学校）
- ・ 石岡市佐久良東雄旧宅保存管理・活用計画策定委員会委員

◆ 兼業

東京大学大学院新領域創成科学研究科

氏 名	松原 康介	職 名	准教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	国際総合学類 専任 社会工学類 兼任		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/
大学院：都市形成史/中東・北アフリカ研究特講Ⅰ
- ◆ 指導学生数：
国際総合学類 9/社会工学類 2/社会工学学位 P（前期）13/社会工学学位 P（後期）2

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 挑戦的萌芽「アレppoの戦災状況調査と戦災復興都市計画原案の策定」
- ◆ 著書・論文等：
Kosuke Matsubara, The work of the Japanese Specialists for New Khmer Architecture in Cambodia, *Proceedings of the 17th International Planning History Society Conference, History Urbanism Resilience*, 17-11, pp.251-259, 2016-07.
DOI:10.7480/iphis.2016.1.1203
Melissa Wangui Wanjiru and Matsubara Kosuke, Street toponymy and the decolonisation of the urban landscape in post-colonial Nairobi, *Journal of Cultural Geography*, 34-1, pp.1-23, 2016-07. DOI:10.1080/08873631.2016.1203518
- ◆ 学会発表等：
Matsubara Kosuke, Shantytown, “Cite de Recasement and HLM Apartment in 1950's Algiers”, TJASSST 2016 in Tsukuba, Japan: The Tunisia-Japan Symposium on Science, Society and Technology, Tsukuba, 2016-09-17--2016-09-18.
松原 康介, 「地中海とニュータウンは遠いか 東南地中海からみた都市計画」, 第 40 回地中海学会大会<地中海トーキング>, 首都大学東京, 2016-06-18.
- ◆ その他：
松原 康介, 「都市空間を見るための基礎情報 オスマニザシオンとキャンディリス」, 日仏科学講座<フランス都市の多文化共生>, 日仏会館, 2017-01-21.
松原 康介, 「中東・北アフリカ地域の都市計画技術協力史」, 第三回都市計画史研究者の会, 東京大学, 2016-11-11.

松原 康介,「シリア人の就学とその後」,サダーカ・シリア勉強会,東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所,2016-11-07.

松原 康介,「イスラム都市」論と都市計画,現代中東地域研究・上智大学拠点・社会経済学班「公共圏」勉強会,京都産業大学,2016-10-22.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
北アフリカ研究センター 兼任准教授
筑波大学北アフリカ研究センター 運営委員
筑波大学ボルドー事務所 運営委員
筑波大学タシケント事務所 運営委員
筑波大学アルマトイ事務所 運営委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
東北大学大学院国際文化研究科 非常勤講師
つくばみらい市総合計画審議会 副会長

JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering), Field Editor
(Architectural/Urban Design)

日本建築学会 アジア建築交流委員会委員（プログラムリーダー）

日本建築学会 図書委員会・文献抄録小委員会・第5部会（都市計画）委員

日本都市計画学会 国際委員

日仏東洋学会 広報担当幹事

- ◆ 受賞

日本都市計画学会論文賞

East Asia Planning History Prize of the International Planning History Society

（国際都市計画史学会東アジア都市計画史賞）

氏 名	三崎 広海	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	リスク工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	リスク工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計学、計量経済学、計量ファイナンス、大規模データ解析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 計量時系列分析/国際・公共システム演習/フレッシュマンセミナー

大学院：金融リスク解析/リスク工学専攻演習/リスクマネジメント序論/リスク工学基礎

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人/社会工学専攻（前期） 6人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

公益財団法人野村財団・社会科学研究助成「高頻度データによる資産価格の分散・共分散推定」（代表）

◆ 著書・論文等：

Misaki, H., “Recent developments in the SIML estimation of integrated volatility with high frequency financial data,” International Symposium on Statistical Analysis for Large Complex Data (Abstracts), pp. 9-18, November 2016.

◆ 学会発表等：

Misaki, H., “Recent developments in the SIML estimation of integrated volatility with high frequency financial data,” International Symposium on Statistical Analysis for Large Complex Data, Univ. of Tsukuba, November 2016. （招待講演）

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻 広報委員会/教育企画委員会/M1 学年主担当/「リスク工学専攻演習」主担当/表彰選考委員会/入試委員会/大塚キャンパス対策委員会/GP 達成度評価委員会/カリキュラム委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

氏 名	繆 瑩	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信、グループ検査		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：線形代数 II／情報ネットワーク／シミュレーション／社工専門英語
大学院：電子商取引
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人／社会工学学位（前期）3 人／社会工学学位（後期）4 人／
研究生 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤研究 (C)「デジタル指紋及びグループ検査に共通する組合せ構造とアルゴリズムに関する研究」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] H. Cai, Z. Zhou, X. Tang and Y. Miao, Zero-difference balanced functions with new parameters and their applications, IEEE Transactions on Information Theory, to appear.
 - [2] M. Cheng, H.-L. Fu, J. Jiang, Y.-H. Lo and Y. Miao, Codes with the identifiable parent property for multimedia fingerprinting, Designs, Codes and Cryptography, 83 (2017), 71-82.
 - [3] M. Cheng, J. Jiang, H. Li, Y. Miao and X. Tang, Bounds and constructions for 3-separable codes of length 3, Designs, Codes and Cryptography 81 (2016), 317-335.
- ◆ 学会発表等：
 - [1] Y. Miao, デジタル指紋の組合せ論 (招待講演), 日本数学会 2017 年度年会, 首都大学東京, 平成 29 年 3 月 24 日-27 日.
 - [2] Y. Miao, Identification of non-zero coordinates in a sparse vector, 現代分析とその応用研究集会, 清華大学数学科学系, 中国, 2016 年 8 月 3 日.
 - [3] Y. Miao, IPP codes for multimedia fingerprinting (Invited Talk), National Conference on Combinatorial Designs, Zhejiang University, China, July 8-11, 2016.
 - [4] Y. Miao, Identification of non-zero coordinates in a sparse vector (Invited Talk), Workshop on Coding Theory and Cryptography, Xiangshan Business Hotel, Beijing, China, July 2-8, 2016.

[5] Y. Miao, Anti-collusion codes and tracing algorithms for multimedia fingerprinting (Invited Talk), Workshop on Coding Theory and Cryptography, Xiangshan Business Hotel, Beijing, China, July 2-8, 2016.

[6] Y. Miao, Fingerprinting codes and bipartite graphs with large girths, GTC 2016 -- Workshop on Graph Theory and Combinatorics of Yangtze Delta, School of Mathematical Sciences, Nanjing Normal University, China, April 15-17, 2016.

[7] Y. Miao, Separable codes and related tracing algorithms for multimedia fingerprinting, School of Mathematical Sciences, Nanjing Normal University, China, April 13, 2016.

[8] Y. Miao, Identification of non-zero coordinates in a sparse vector, School of Mathematical Sciences, Nanjing Normal University, China, April 11, 2016.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学：中国北京事務所運営委員
システム情報工学研究科：留学生委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院：留学生支援委員長／学生相談室長
学類：入試実施副委員長
域：人事懇談会世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April-present.
- ◆ Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004-present.
- ◆ Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009-present.

氏 名	村上 暁信	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	緑地計画, ランドスケープ・デザイン, 都市農村計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市緑地計画, 都市計画マスタープラン策定実習

大学院 Landscape Planning, ランドスケープ・デザイン・スタジオ

◆ 指導学生数：

社会システム工学専攻 3人／社会工学専攻 1人(博士後期)／環境科学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「量から質へのシフトを実現するための緑地の計画制度・設計手法・運用方法の研究」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「津波で失われた景観のデジタル再現と記憶の分析によるコミュニティが共有する場の解析」(代表)

一般財団法人 住総研 研究・実践助成「昭和三陸津波後に高台移転した地域における東日本大震災後の復興ー津波被災前の 3D デジタルモデルを用いた分析」(代表)

公益財団法人 旭硝子財団「低環境負荷型住まい方の実践とソーシャル・キャピタル向上の相乗効果を誘発する都市デザインーインドネシア・ジャカルタの中層住宅における建築空間・住民行動・コミュニティの関係分析」(代表)

◆ 著書・論文等：

Sato, Y., Higuchi, A., Takami, A., Murakami, A., Masutomi, Y., Tsuchiya, K., Goto, D., Nakajima, T., Regional variability in the impacts of future land use on summertime temperatures in Kanto region, the Japanese megacity, Urban Forestry & Urban Greening, Elsevier, 20, 43-55, 2016 (査読有)

Yokohari, M., Murakami, A., Hara, Y., Tsuchiya, K. (Eds.), Sustainable Landscape Planning in Selected Urban Regions, Springer Japan, 265p, 2017

Murakami, A., Kurihara, S., Harashina, K., Zain, A. M., Features of Urbanization and Changes in the Thermal Environment in Jakarta, Indonesia (in Yokohari, M., Murakami, A., Hara, Y., Tsuchiya, K. (Eds.), Sustainable Landscape Planning in Selected Urban Regions, Springer Japan), 61-71, 2017 (査読有)

◆ 学会発表等：

◆ その他：

村上曉信：自然環境と都市の共生：共存から相利共生へ．建築雑誌，131，28-29，2016

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類将来設計WGメンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 政府・地方自治体・独立行政法人等の座長・会長・委員：

日本学術会議連携会員

守谷市都市計画審議会委員

東京都港区緑と水の委員会委員

横浜市エキサイトよこはま22環境検討部会委員

三鷹市景観審議会委員

山梨県都市計画マスタープラン委員会委員

◆ 学会活動：

日本造園学会学術委員会委員

日本都市計画学会国際委員会委員

環境情報科学センター理事

農村計画学会評議員

氏 名	山本 幸子	職 名	助教
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ストック活用計画, 住宅計画, 地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：設計演習Ⅰ／住環境計画実習／設計演習Ⅱ／住まいと居住環境の計画／総合科目Ⅲ
／現代まちづくりの理論と実践

大学院：住環境計画論（環境科学専攻）／環境科学実習・演習（環境科学専攻）
社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ／
社会工学ファシリテーター育成プレプログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

◆ 指導学生数：

社会工学類 1名、社会工学専攻 4名、研究生 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

基盤研究 C：「地域特性に対応した包括的移住支援システムのパターン展開」（代表）

基盤研究 C：「小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムの有効性と課題」（分担）

基盤研究 B：「過疎地域における廃校・空き家を活用した地域主導型福祉サービスネットワークの構築」（分担）

受託研究（石岡市）：「石岡市看板建築及び里山景観等調査研究」（分担）

共同研究（長野県）：「木曽漆器産地の活性化に関する研究」（分担）

学術指導（守谷市）：「みずき野地区の将来を見据えた長期ビジョン作成のための住民アンケートの実施に関する学術指導」（分担）

◆ 著書・論文等：

- 1) 三島幸子, 中園真人, 石橋風砂, 山本幸子, 孔相権：社会福祉事業団による高齢者通所介護施設の整備プロセスと利用特性－山口県萩市を対象として－, 日本建築学会計画系論文集, 第 82 巻, 第 732 号, pp. 353-361, 2017. 2
- 2) 伊藤優里, 山本幸子, 中園真人：山口市の地域型子育て支援施設における講習会・イベントの運営体制, 日本建築学会技術報告集, 第 22 巻, 第 52 号, pp. 1085-1090, 2016. 10

- 3) 孔相権, 草野啓太, 中園真人, 山本幸子, 牛島朗: 中国地方における学童保育施設の自治体及び小学校区単位の整備状況, 日本建築学会計画系論文集, 第 81 巻, 第 725 号, pp.1473-1481, 2016. 7
- 4) 三島幸子, 中園真人, 小峰まど香, 孔相権, 山本幸子: 介護保険制度導入後の高齢者通所介護施設の地域的供給特性の比較ー山口県における運営主体に着目した立地特性分析ー, 日本建築学会計画系論文集, 第 81 巻, 第 725 号, pp.1463-1471, 2016. 7
- 5) 中園真人, 大和恥羅, 山本幸子, 孔相権, 牛島朗: 学童保育施設における平日放課後の集団規模と使われ方の関係ー農家の納屋を改修した 2 室 3 領域型児童クラブハウス「つばめの家」の事例研究ー, 日本建築学会計画系論文集, 第 81 巻, 第 723 号, pp.1207-1215, 2016. 5
- 6) Saya Okazaki, Yuri Ito, Sachiko Yamamoto, Mahito Nakazono : Planning and verification of a renewal project of children's home with downsizing care unit, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.385-390, 2016.9
- 7) Nagisa Ishibashi, Mahito Nakazono, Sachiko Mishima, Syohken Koh, Sachiko Yamamoto, Saori Ohashi : The Construction Process and Use Characteristics of Day Care Facilities for the Elderly in Mountainous Areas -Case Study on northern part of Hagi area in Yamaguchi Prefecture-, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.464-469, 2016. 9
- 8) Sachiko Mishima, Mahito Nakazono, Syohken Koh, Sachiko Yamamoto, Nagisa Ishibashi, Saori Ohashi : Space Utilization of Regional Nucleus Day Care Facility -Case Study in Abu Town Yamaguchi Prefecture-, Proceedings of 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.470-475, 2016. 9
- 9) 日本住宅会議 (編集), 深化する居住の危機ー住宅白書 2014-2016, ドメス出版, 2016.12
- 10) 山本幸子: 「ふるさと島根定住財団」の産業体験事業と体験者の就労・生活実態ー島根県隠岐郡海士町の事例ー, 2016 年度日本建築学会大会 (九州) 農村計画部門パネルディスカッション資料, pp.34-39, 2016.8

◆ 学会発表等:

- 1) 高野静香, 山本幸子: 地方自治体における近居支援事業の実施状況と事業内容ー東日本の自治体の取り組みを対象としてー, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.241-242, 2016.8
- 2) 大野銀河, 山本幸子: 移住者主体による空き家を転用したゲストハウスの移住・開業プロセスと改修内容・手法, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.169-170, 2016.8
- 3) 石村匠, 山本幸子: 観光地のある斜面集落における施設立地と居住地の生活ー茨城県つくば市筑波地区を対象としてー, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), pp.69-70, 2016.8

- 4) 平井元貴, 山本幸子：一棟丸ごとリノベーションによる分譲マンション再生手法に関する研究－共用空間のリノベーションに着目して－, 日本建築学会大会学術講演梗概集(九州), pp.1361-1361, 2016.8

◆ その他：

- 1) 「つくばの古民家の今」, NPO 法人つくば建築研究会第 11 回市民シンポジウム「古民家から考えるつくばの再生」基調講演（つくば市）, 2017 年 3 月 5 日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 カリキュラム委員会：委員

社会工学類 建築士受験資格運営委員会：委員

社会工学専攻 施設委員会：委員

環境科学専攻 就職委員会：委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- 1) 利根町空家等対策協議会委員長
- 2) 石岡市空家等対策協議会委員
- 3) 大学等地域連携委員会委員（茨城県）
- 4) 土浦市川口二丁目地区基本計画策定委員会副委員長
- 5) 石岡市都市計画審議会委員
- 6) 大学等地域連携委員会委員（茨城県）
- 7) 城里町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- 8) 利根町まち・ひと・しごと創生推進協議会委員
- 9) 城里町総合計画審議会委員
- 10) 土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員

氏 名	吉瀬 章子	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化, オペレーションズ・リサーチ, サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法／数学の言葉
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計 19 名
 - システム情報工学研究科
 - 社会システム・マネジメント専攻 3 名
 - 社会システム工学専攻 1 名
 - 社会工学専攻・社会工学学位プログラム 4 名
 - 社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 5 名
 - 理工学群社会工学類 6 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究 (B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(代表)
 - 共同研究 (トヨタ自動車株式会社)「次世代社会システムとモビリティの新価値研究」(共同代表)
 - 科学研究費 基盤研究 (A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究 (B)「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究 (C)「実用的な微分フリー最適化アルゴリズムの開発」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究 (C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - 横尾知孝, 田中彰浩, 吉瀬 章子, 「Nuclear ノルムを用いた行列ランク最小化手法の 協調フィルタリングへの応用」, 統計数理研究所共同研究リポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」(2017), 査読無
 - 成島大悟, 田中彰浩, 吉瀬 章子, 「SD 基を用いた錐最適化問題の近似について」, 統計数

理研究所共同研究レポート「最適化：モデリングとアルゴリズム」(2017), 査読無

Yosuke Watanabe, Kiyo Ishii, Toshiki Saro, Atsuko Takefusa, Tomohiro Kudoh, Maiko Shigeno, Akiko Yoshise, “Routing and wavelength/sub-wavelength path assignment to maximizing accommodated traffic demands on optical networks,” Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing 10(2016), 査読有,

10.1299/jamdsm.2016jamdsm0038

Hideaki Takagi, Yukihiro Okada, Akiko Yoshise, Maiko Shigeno, “Creation of Service Science Curriculum for Customer-Oriented Business Innovation (Chapter),” Global Perspectives on Service Science: Japan, Part of the series Service Science: Research and Innovations in the Service Economy (2016) 313-336, 査読有

10.1007/978-1-4939-3594-9_20

Toshiki Sato, Yuichi Takano, Ryuhei Miyashiro, Akiko Yoshise, “Feature subset selection for logistic regression via mixed integer optimization,” Computational Optimization and Applications 64(2016) 865-880, 査読有

10.1007/s10589-016-9832-2.

◆ 学会発表等：

多名賀寛, 高原勇, 川本雅之, 吉瀬章子, 「交通ネットワーク上における水素ステーションの最適配置モデル」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会, 2017 年 3 月 17 日, 沖縄県市町村自治会館

成島大悟, 吉瀬章子, 「半正定値基底を用いた錐最適化問題の近似について」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会, 2017 年 3 月 17 日, 沖縄県市町村自治会館

宮川穂貴, 石井紀代, 竹房あつ子, 工藤知宏, 繁野麻衣子, 吉瀬章子, 「エラスティック光ネットワーク上のエニーキャスト通信に対するヒューリスティックアルゴリズム」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会, 2017 年 3 月 16 日, 沖縄県市町村自治会館

木村雅志, 多名賀寛, 川本雅之, 吉瀬章子, 「時空間ネットワークを用いたモビリティの運行パターン比較」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会, 2017 年 3 月 16 日, 沖縄県市町村自治会館

多名賀寛, 高原勇, 川本雅之, 吉瀬章子, 「茨城県南部における水素供給サービスを満足させセッションの配置モデル」, 日本経営学会秋季発表会, 2016 年 10 月 29 日, 日本教育会館

吉瀬章子, 「筑波大学におけるサービス工学の取組 - イバライアンス・ビッグデータ・人工知能による価値創造」, 日本経営学会秋季発表会, 2016 年 10 月 29 日, 日本教育会館

Daigo Narushima, Akihiro Tanaka, Akiko Yoshise, “Inner and Outer Approximations of the Semidefinite Cone Using SD Bases and Their Applications to Some NP-hard Problems,” ICCOPT 2016 Tokyo, 2016 年 8 月 10 日, 政策研究大学院大学

Yomonari Yokoo, Akihiro Tanaka, Akiko Yoshise, “Rank Minimization Approach to Collaborative Filtering Based on the Nuclear Norm Minimization,” ICCOPT 2016 Tokyo, 2016 年 8 月 10 日, 政策研究大学院大学

Akihiro Tanaka, Akiko Yoshise, “Some Tractable Subcones for Testing Copositivity,” ICCOPT 2016 Tokyo, 2016 年 8 月 8 日, 政策研究大学院大学

Akihiro Tanaka, Akiko Yoshise, “Some Tractable Subcones for Testing Copositivity,” ICOTA 10, 2016 年 7 月 23 日, Ulaanbaatar, Mongolia, 招待講演

◆ その他：

なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

(全学) 保育施設委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

(専攻) 社会工学専攻サービス工学学位プログラムリーダー, 施設委員会委員

(学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)

Pacific Journal of Optimization 編集委員

日中最適化会議運営委員

国際会議 ICCOPT 2016 運営委員

国際会議 ICCOPT 2016 Best Paper Prize committee

日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員

論文査読：Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, 等

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

科学技術振興調整費評価作業部会委員

茨城県サービス産業生産性・付加価値向上促進事業審査会委員

竜ヶ崎第一高等学校 SSH 運営指導委員会 委員長

氏 名	吉野 邦彦	職 名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 持続環境学専攻	専任 兼任	
専攻 (博士前期課程)	環境科学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類	専任	
研究分野	環境影響評価, 環境リモートセンシング		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 : 都市計画実習, 都市計画情報実習, 都市環境評価論
博士前期課程 : 環境空間情報工学 (環境科学専攻), 環境科学実習 (春および秋学期),
- ◆ 指導学生数 :
大学院前期課程 (社会工学専攻) 1 名
大学院後期課程 (社会工学専攻) 3 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
1) 科研費 基盤研究 (一般) (B) (代表) 超多重分光画像を用いた釧路湿原の生物多様性ホットスポット植物群落分類
2) リモートセンシング・Soil Line の空間特性研究
- ◆ 著書・論文等 :
1) Mohamed Kefi, Tien Dat Pham, Kashiwagi Kenichi, Kunihiro Yoshino (2016). Identification of Irrigated Olive Growing Farms Using Remote Sensing Techniques. Euro-Mediterranean Journal for Environmental Integration (EMJEI), Special Issue. EMJE-D-16-00005R1.
2) Zou, T. and Yoshino, K. (2016). Environmental vulnerability assessment using remote sensing and GIS : A case study in Daxing'anling area, China. 写真測量とリモートセンシング 55(5) : 314-320. (Refereed)
3) Pham, T. D., Yoshino, K., and Buid, D. T. (2016). Biomass Estimation of Sonneratia caseolaris (L.) Engler at a coastal area of Hai Phong city (Vietnam) using ALOS-2 PALSAR Imagery and GIS-based multi-layer perceptron neural networks. GIScience Remote Sensing 54(3) : 329-353. doi:10.1080/15481603.2016.1269869

◆ 学会発表等：

1) Pham T. D. and Yoshino K. 2016. Characterization of mangrove species using ALOS-2 PALSAR in Hai Phong city, Vietnam. The 8th International Conference and Exhibition on Remote sensing and GIS, Berjaya Times Square Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia. 2016 April 12-15.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究科：FD 委員長

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学域：FD 委員長（アニュアルレポート，ファカルティセミナー，防災，懇親会，
産学連携，社会連携，授業評価担当）

学群：4 年生クラス担任（学生相談，クラス連絡会）

4. 学外の社会貢献

◆ 茨城県環境影響評価審査会委員 2016-08～2017-07

◆ つくば市環境審議会委員 2016-10～

◆ JSPRS 編集委員・評議委員

◆ 「釧路湿原自然再生協議会」委員 2015-12～

氏 名	渡辺 俊	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻	専任	
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻 環境科学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類	専任	
研究分野	建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
基本製図／住環境計画実習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ
大学院 空間情報科学／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 4人／研究生 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(分担)

科学研究費 基盤研究(B)「デザイン思考における記号操作の意味的構造と実践的役割に着目するデザイン知の探求」(分担)

◆ 著書・論文等：

Michio, Matsubayashi; Watanabe, Shun; Generating two-dimensional schematic diagrams of machanical, electrical, and plumbing systems from three-dimensional building information models, International Journal of Architectural Computing, 14(3), 2016, 219-232, 10.1177/1478077116663344

Shun Watanabe; Minka, Machiya, and Gassho-Zukuri -Procedural Generation of Japanese Traditional Houses-, CAADence in Architecture, Back to command, 2016, 41-47, 10.3311/CAADence.1614

Michio, Matsubayashi; Watanabe, Shun; Forecasting Time between Problems of Building Components by Using BIM, CAADence in Architecture, Back to command, 2016, 107-112, 10.3311/CAADence.1637

◆ 学会発表等：

Shun Watanabe; Minka, Machiya, and Gassho-Zukuri -Procedural Generation of Japanese Traditional Houses-, International Conference on Computer Aided Architectural Design, 2016年6月16日～2016年6月17日, Budapest, HUNGARY

Michio, Matsubayashi; Watanabe, Shun; Forecasting Time between Problems of Building Components by Using BIM, International Conference on Computer Aided Architectural Design, 2016 年 6 月 16 日～2016 年 6 月 17 日, Budapest, HUNGARY

韓枝軒・渡辺俊; 中国安慶市の敬老院における整備実態の居住者の満足度に関する研究, 2016 年度日本建築学会大会 (九州), 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日, 福岡大学
松林道雄・渡辺俊; BIM と修繕記録を用いた既存建物の部位等の更新間隔算出, 2016 年度日本建築学会大会 (九州), 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日, 福岡大学

大村清美・渡辺俊; 郊外住宅地 50 年設計, 2016 年度日本建築学会大会 (九州), 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日, 福岡大学

桑原由貴・渡辺俊; 共育 ～ともに育て、ともに育つ保育園～, 2016 年度日本建築学会大会 (九州), 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日, 福岡大学

渡辺俊; デジタル・モデュロール, 日本建築学会・第 39 回 情報・システム・利用・技術シンポジウム, 2016 年 12 月 8 日～2016 年 12 月 9 日, 建築会館

川邊晃大・渡辺俊; 多核性に関する指標を用いたわが国の大都市圏の形態 分析 -Metropolitan Form Analysis による大都市形態の定量化に関する研究-, 日本建築学会・第 39 回 情報・システム・利用・技術シンポジウム, 2016 年 12 月 8 日～2016 年 12 月 9 日, 建築会館

◆ その他:

渡辺俊: モデュロールによる羽目板遊びの全解探索アルゴリズム、研究交流会、2016 年 12 月 16 日～2016 年 12 月 17 日、京都リサーチパーク

渡辺俊: 世界遺産・黄金比・組み合わせ爆発、研究交流会、2017 年 2 月 13 日、大阪大学

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
教育社会連携推進室長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
社会工学専攻 運営委員、コンピュータ委員
社会工学類 運営委員、コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員
日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員
日本建築学会デザイン科学教育方法研究小委員会委員
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG委員
他

氏 名	渡邊 真一郎	職 名	教授
専攻(博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻(博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	国際総合学類 専任		
研究分野	産業・組織心理学、組織行動論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：産業・組織心理学、組織行動論
- ◆ 指導学生数：11 名
 - 学類 5 名（社会工学類生 1 名；国際総合学類生 4 名）
 - 社会工学専攻前期博士課程 4 名
 - 社会工学専攻後期博士課程 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 看護行動研究、組織行動研究
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
 - Watanabe, S., Tsutsuba, N., & Kanazawa, Y. (2016). Calculating the magnitude of emotional dissonance by vector operations. *Association for Psychological Science 28th Convention, May 28, 2016, Chicago, USA.*
(<http://www.psychologicalscience.org/index.php/convention/2016-program#.V2SurPZwwVB>)
 - Watanabe, S., Nakamura, S., & Kanazawa, Y. (2016). Modelling the antecedents of proactive work behaviors for nurses. *Association for Psychological Science 28th Convention, May 28, 2016, Chicago, USA.*
(<http://www.psychologicalscience.org/index.php/convention/2016-program#.V2SurPZwwVB>)
 - Kwantes, C. T., Kanazawa, Y., & Watanabe, S. (2016). Prediction of Generalized Caution in Canada and Japan. *The 77th Annual Convention of the Canadian Psychological Association, June 9, 2016, Victoria, BC, Canada.*

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 早期修了プログラム運営委員会・委員（全学）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 論文委員会・委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - Cornell University Admissions Ambassador Association Network 日本支部委員